

DEPARTMENT OF COMMUNIT

目次 CONTENTS

ごあいさつ	02
 島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介	04
 講座紹介	05
 1年間のあゆみ	06
① 学生教育	06
② 学生支援等	21
③ 地域医療交流サロンの取り組み	39
④ 地域医療支援等	42
⑤ ホームページ・広報誌等による情報発信	45
⑥ 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み	50
⑦ ワークライフバランス	55
⑧ 第12回中四国地域医療フォーラム	61
 業績	64
 写真で見る1年間	72
おわりに	78



FACULTY OF MEDI

Y MEDICINE MANAGEMENT



CINE SHIMANE UNIVERSITY

ごあいさつ

島根大学医学部長 鬼形和道

ウィズコロナ時代、あるいはポストコロナ時代の展開を考えることが多くなり、皆さまも新たな仕事や課題を抱えて多事多忙の毎日と存じます。平素は、島根大学医学部の地域医療支援学講座の活動にご理解、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。令和3年度(2021年度)の報告書が完成致しましたので、皆さまにお届けいたします。

毎年の報告書を見返しますと、ちりばめられた幾多の写真に「笑顔」があふれています。特に、若手医療人と指導者に笑顔が多いように見えます。これは、佐野千晶教授が、次世代を見据えた地域医療支援学講座の活動を展開している証ではないでしょうか？本報告書でも、コロナ禍の影響でオンライン集合写真が散見されますが、マスクの向こう側にも柔らかな表情が見て取れます。

さらに、佐野教授の医学教育に対する情熱を、多方面との交流に対する前傾姿勢を、そして臨床研究、取り分け学部学生に対する良質な指導を見つけることができます。あの頃、学生だった者が医師となり、そして臨床研修指導医となる時代を迎えています。是非、佐野教授には、その教育情熱を、前傾姿勢を、そして良質指導を次世代に伝えていただきたいと思います。

地域医療に関わる若手医師の育成・県内定着とともに、彼らのキャリア形成(専門医取得・教育者・指導者)を支援することが本講座の使命です。医学教育の中で、「知識」や「技術」とともに、あるいはそれ以上に「プロフェッショナリズム」の中で培うべき「態度・姿勢」が重要視されています。地域医療への貢献は島根大学医学部の大きなミッションであり、地域で指導者あるいは教育者となれる高い資質を有した人材の育成を進めてまいります。

こうした人材育成を図る上で、島根県、市町村、そして県内外の医療機関と島根大学医学部および本講座との密接な連携が必須です。引き続き、本講座および島根大学医学部へのご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ

地域医療支援学講座 教授 佐野 千 晶

皆様方には、島根大学医学部地域医療支援学講座の取り組みに対しまして、平素より多大な御協力賜り、深く感謝申し上げます。

この原稿を書いている現在におきましても、世界はコロナウイルス オミクロン株の感染に見舞われています。2021年度はコロナウイルス感染症の波に翻弄されつつも、地域医療教育の中で「もう少し出来ることは何かないか。」「感染対策と地域医療教育の充実との両立をはかりたい。」と、模索を続ける年となりました。

徐々にコロナウイルスに関する知見が蓄積されてきたこともあり、2020年度に叶わなかった企画を感染の波を見計らいながら、実施しました。新入生歓迎会食が出来ないということで、新たな企画となる新入生病院めぐりバスツアー・副知事表敬訪問や、2020年度には出来なかった夏季地域医療実習、県西部のフィールド学習などが実施できました。ひとえに関係者皆様方のおかげであり、重ねて心より感謝致します。

また、医学生さんが行う地域シーズをもちいた研究が、論文という形になって結実した年にもなりました。地域病院の熱心な指導医先生と協働し、今後の展開に期待し支援を行ってまいりたいと思います。

加えて本年度より総合診療医センターが新たに島根大学医学部に立ちあがりました。白石吉彦センター長（隠岐島前病院）をはじめとして、総合診療医育成の関係者のホームベースを形成しておられます。本講座も密な連携をとり島根の地域ニーズに即した医師育成にかかわってまいりたいと思っている所存です。

これらの取り組みは、学内関係者をはじめ、島根県、市町村、県内医療機関、さらには全国の多くの皆さんの御支援をいただきながら、積み上げてきたものです。今後も、地域医療支援学は与えられたミッションに基づき、島根県の地域医療の発展に、関係者の皆様とともに頑張っていこうと考えておりますので、引き続きご指導賜れますようお願い申し上げます。



島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介

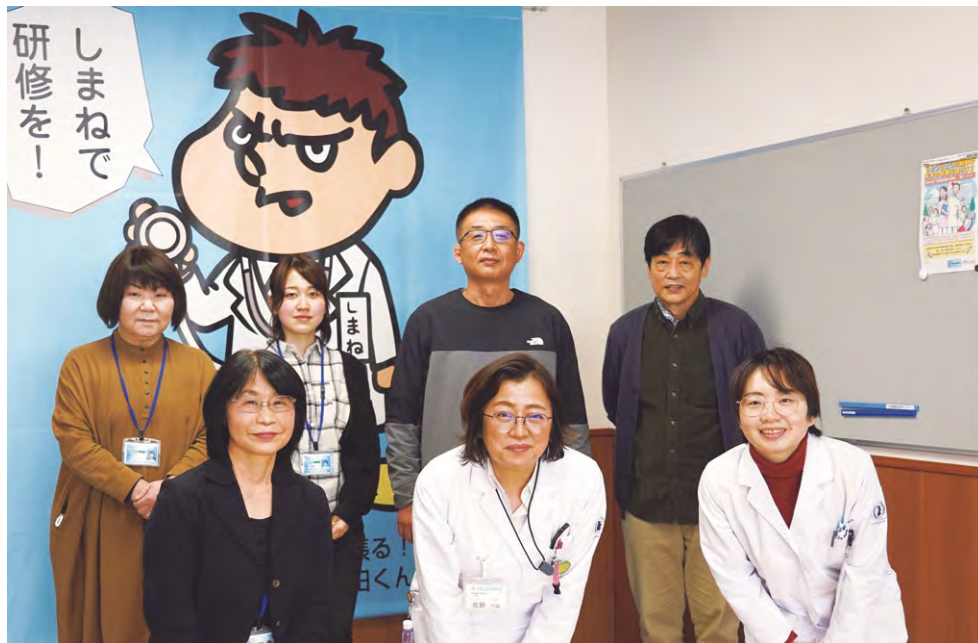
MEMBER

教員

教授	佐野千晶	平成31年4月～
助教	布野慶人	平成29年4月～
助教	堀田優希江	令和2年7月～
特任助教	宅野真由美	平成31年4月～

事務職員

事務補佐員	杉原眞司	令和元年8月～
特定職員	高橋和歌子	令和3年5月～
特定職員	楠田有希	令和3年5月～





講座紹介

COURSE

当講座は、地域医療教育学講座、地域医療政策学講座、総合医療学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら、「学生が、地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるため、また医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援する」ために、以下の様な取り組みに関わっている。

1 医学科学生教育

《学生教育》

- 1年生：講義：地域医療学【必修】
- 3年生：研究室配属【必修】
- 4年生：男女共同参画講義（キャリア教育）【必修】
- 5年生：①臨床実習（地域医療・総合医療）【必修】 ②臨床実習（地域医療実習）【必修】
- 6年生：臨床実習（地域医療実習）【選択】
- 1年～6年夏期・春期休暇期間：地域医療体験実習Ⅰ（夏季・春季地域医療実習）【自由】
- 1年～6年通年 必修科目時間外：地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）【自由】

《学生支援》

地域医療 Webinar：学外講師招聘（年10回）、Career Webinar：学内講師招聘（年11回）
ビデオセミナー（8月3月を除く月4回）、総合診療医ブラッシュアップセミナー（年1回）
総合診療専門医プログラム説明会（年1回）、学生面談、学生と地域との交流支援、
学生企画の支援 等

2 医師のキャリア支援活動

地域枠等医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援、総合診療専門医育成支援、しまね総合診療医の集い（年3回）、しまね地域医療支援センター理事及び専任医師（教授）Iターンを含む県内医師のキャリア支援、研修会等の託児支援

3 地域医療支援

地域医療システムマネジメント支援、ワークライフバランス支援（復職支援を含む）
地域医療を支える住民活動支援、地域医療コーディネータ支援、地域医療研究会支援



1年間のあゆみ

TIMELINE

1 学生教育

1 地域医療学

平成28年度から医学科1年生を対象に地域医療学の授業を開講している。この授業は、地域社会における医療を多元的な視点から理解することを目指し、地域医療が抱える課題を解決するための方略を学ぶとともに、地域医療へ対する使命感を養うことを学習目標としている。

講師陣は学内教員、鳥根県衛生行政担当者や県内で地域医療を実践する総合診療医等の先生方、更には患者会や地域医療を守り育てる住民活動の会の方々と、様々な角度から講義を行う。

内容は、地域医療の概要、離島・中山間地・市街地の地域医療、多職種連携（地域住民・患者の立場、訪問看護）、地域包括ケア、公衆衛生行政と地域医療、高齢者社会と地域医療、ネパールでの医療貢献：その限界と将来、災害医療、病院前救急、医学史である。

コロナ禍2年目の講義は、対面50%・オンライン50%のハイブリッド方式で始まったが、1月からはコロナウイルス感染症拡大の為、対面が中止となりオンライン授業となった。

令和3年度 地域医療学 授業日程表

回	実施日	時間	場所	実施方式	配信方法	授業内容	担当
1	10.8(金)	13:00 } 14:40	L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	地域医療とは	佐野
2	10.22(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	離島の地域医療	白石
3	10.29(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	市街地の地域医療	花田
4	11.5(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	中山間地の地域医療Ⅰ	阿部
5	11.12(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	中山間地の地域医療Ⅱ	角田
6	11.19(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	多職種連携Ⅰ	熊倉・佐野
7	11.26(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	多職種連携Ⅱ	熊倉・佐野
8	12.10(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	ネパールでの医療貢献： その限界と将来	森
9	12.14(火)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	地域包括ケア	谷口
10	12.17(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	公衆衛生行政と地域医療	村下
11	12.24(金)		L3	対面+ライブ	Webex (ライブ)	高齢社会と地域医療	杉谷
12	1.21(金)		自室	ライブ	Webex (ライブ)	災害医療	渡部
13	1.28(金)		自室	ライブ	Webex (ライブ)	病院前救急	布野
14	2.4(金)		自室	ライブ	Webex (ライブ)	医学史—華岡流外科の普及 と近代医学	梶谷



2 研究室配属

【期 間】 令和3年8月30日（月）～10月1日（金）

島根大学医学部では3年次に、医学生自ら希望する講座で研究参加や臨床見学等を行うことができる研究室配属を実施している。当講座は今年度6名の医学生を受け入れた。

前半は大学病院内にある患者会や地域医療連携センターの方からお話を伺い、その後出雲市内のクリニックや訪問看護ステーション、保健所でのフィールドワークを通し、病診連携や多職種連携、公衆衛生行政等について学んだ。

中盤には、鹿児島大学3年次の地域枠医学生が研究報告する「第55回鹿児島地域医療教育報告会」に参加し終了後意見交換会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の為中止とした。

後半は浜田市弥栄診療所の所長・阿部先生のご指導の下、「新型コロナウイルス感染症が中山間地域の診療所の活動に与えた影響」について、2泊3日弥栄町でのフィールドワークを行った。1日の実習終了時には、阿部先生からのフィードバックを受け、新型コロナウイルス感染症が与えた影響や今後に向けた提案についてまとめた。

講座内発表を行い、最終発表には2題出し、弥栄地域において継続的に研究を進めた「地域公共交通が保障すべきセーフティネットの水準に関する研究」が最優秀発表者6人の1人に選ばれた。



3 臨床実習入門特別プログラム 特別講演

【実施日】 令和3年12月3日（金）12：50～15：00

【場 所】 島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】 医学部医学科4年生

【講 師】 NPO法人ささえあい医療人権センター COML 理事長 山口 育子 氏

【概 要】

「患者と向き合う 臨床実習直前の医学生の皆さんへ」と題して、臨床実習に臨む心構えについて講演を頂いた。

ささえあい医療人権センター COML の創設の経緯と活動についてご紹介頂き、「患者という個別的な存在について“知る努力”で理解に近づく」「患者が医療者に求めていること」「インフォームド・コンセントの成熟」「患者が不信感を抱く医療者の対応」「患者の理解を阻害するもの」「こんな医師に出会いたい」等について分かりやすくお話を頂いた。

学生からは、「実習に入る前に『患者とどう向き合うか』考える機会を頂いた」「これまでは医療者と患者との間でのコミュニケーションや信頼関係の構築について医療者側の立場からの講義であった。今回は患者さんの声を基に問題点や医療者が実行していくべきことについて聴くことができ、大きな学びを得た。」等多くの感想が寄せられた。

実習を前にした学生は具体的な示唆に気持ちを引き締め、実習に臨む心構えができたのではないかと考える。



4 臨床実習入門特別プログラム 男女共同参画講義（キャリア教育）

4年次を対象とし、4コマの男女共同参画講義（キャリア教育）を行っている。本講義は島根県医師会と連携しながら実施している。

【実施日】 令和3年12月16日（木）9：40～16：10

【場 所】 島根大学医学部 臨床大講堂（Web併用）

【対 象】 島根大学医学部4年生

【主 催】 島根大学医学部地域医療支援学講座
島根県医師会

【共 催】 日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

- 【内 容】
- ① WLB講演ならびにワーク
広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生（Web）
 - ② キャリアモデルの紹介
島根大学医学部 消化器内科 助教 沖本 英子 先生
島根大学医学部 器官病理学 准教授 荒木 亜寿香 先生
島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター 副センター長 安部 哲史 先生
 - ③ 島根大学男女共同参画の取り組み
島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当） 河野 美江 先生（Web）
 - ④ 島根県「えんネット」の取り組み
島根大学医学部地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会講演会】

特別講演1. 「新しい医師の生き方5.0」

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーションスクール
教授 吉田 穂波 先生（Web）

特別講演2. 「世界のコロナマネジメント」

WHO感染症危機管理シニアアドバイザー
進藤 奈邦子 先生（Web）



【概 要】 午前の部は広島大学医学部医学教育センター教授の蓮沼直子先生に、『ライフイベントとキャリア』について教示いただいた。シナリオグループワークを男女混合19グループで行い、そのうち4グループに考えを発表してもらい、先生からの講評をいただいた。中盤では、大谷翔平選手の目標達成シートワークで、将来の目標を言語化することの難しさを学び、達成するための項目を可視化し、そのプロセスについて考えた。最後に、卒後10年目までのキャリア年表を作成し、どのようなワーク・ライフを目指すのか、学生は将来への具体的なイメージを

膨らませた。

午後の部は、島根大学の3名の先生をキャリアモデルにお話しいただいた。それぞれに苦勞しながらも、家庭と仕事を楽しく両立している様子が伺えた。

医師会共同主催の特別講演では2名の先生にご講演いただいた。一人目は神奈川県立保健福祉大学教授の吉田穂波先生に『受援力』についてのお話を頂いた。『常に感謝の気持ちを持ち、愛を注ぐことが患者さんに接するときにも大切である』と教示いただいた。

二人目はWHOシニアアドバイザーの進藤奈邦子先生に、WHO本部ジュネーブからお話しいただいた。世界のコロナ情勢やオミクロン株の脅威についてデータをお示し頂き、エビデンスに基づく貴重な講演を拝聴できた。また、進藤先生のご経歴について、家庭と仕事を両立しながらWHO医師として第一線での活躍など輝かしいキャリアの軌跡についてお話しいただいた。

学生からは「このような講義はほとんどなかったのでも参考になった。」という感想が聞けた。学生の男女共同参画に対する意識がさらに高まるよう、次年度に向けて充実したプログラム構成を考えていきたい。学生にとっても普段とは違う講義で実りが多かったようである。

5 臨床実習（地域医療・総合医療学）

本コースでは、大学及び地域の医療機関（病院及び診療所）において、基本的な診療能力の向上と総合診療の学習を目的として実習を行う。

地域医療教育学講座、総合医療学講座、卒後臨床研修センターと当講座の教員により、5年次の臨床実習の一部を担当している。

当講座では主に最初のオリエンテーションとケースメソッド教育を担当している。本コースでは、シミュレーションモデルを用いた演習を組み入れている。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いている時期には、地域の在宅医療に関わる医師にお願いをして、在宅医療実習が実践できる内容となっている。フィードバックの総括は分担して担当している。

■令和3年度 スケジュール

午 前					午 後				
	集合		担当教員	学生	集合		担当教員	学生	
月	9:00	オリエンテーション① 地域医療演習 【オンライン実習 WebEx】	佐野 地域医療 支援学	全員	13:30	臨床推論 【オンライン実習・ Webex】	鬼形 卒後臨床研修 センター	全員	
	10:30	オリエンテーション② 総合診療 【オンライン実習 WebEx】	牧石 総合医療学		16:00 ※ 11月～ 3月 17:00	医療面接(英語) 【総合医療学医局】	木島 総合医療学 マルガリータ スウェーデン・ ルンド大学		
火	8:20	診療所実習(1名) どれみクリニック基常 小児科	羽根田	1名	14:00	総合医療学実習 (腰椎穿刺シミュレータ 実習) 【スキルアップセンター】	山形 大田総合医 育成センター	全員	
	10:00	総合診療学実習 【総合医療学医局】	牧石 総合医療学	上記 1名 以外					
水	7:30	早朝セミナー 【オンライン実習 WebEx】	鬼形 卒後臨床研修 センター	全員	14:00	わたなべこども レディースクリニック (2名)	渡辺	2名	
	8:15	臨床推論 【オンライン実習 WebEx】				乙立里家診療所実習 (1名)	内科学第一 教員	1名	
木	7:30	総合診療学実習 【総合医療学医局】	牧石 総合医療学	任意	14:00	総合医療学実習 (心音聴診シミュレータ 実習) ★要聴診器 【スキルアップセンター】	高橋 大田総合医 育成センター	上記 1名 以外	
	9:30	総合医療学実習 (縫合シミュレータ実習) 【スキルアップセンター】	山口 大田総合医 育成センター	全員					
金	午前	診療所実習(1名) 手納医院	手納	1名	14:00	乙立里家診療所実習 (1名)	内科学第三 教員	1名	
		診療所実習(1名) 在宅診療所いずも	宮本	1名					
		診療所実習(1名) 遠藤クリニック	遠藤	1名					
		診療所実習(1名) ホームクリニック暖	奥野	1名					
		救急外来実習(1名) C棟1F 院内処方渡し口	牧石 総合医療学	1名					
17:00	総合医療学実習 (腎・膀胱・前立腺 シミュレータ実習) ★事前視聴動画有★ 【スキルアップセンター】	本田 大田総合医 育成センター	上記 1名 以外						

6 臨床実習（地域医療実習）

プライマリ・ケアの近接性、包括性、継続性、協調性、責任性を特色とする地域医療実習は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を学習する。医療全体を見渡すことができる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めることを目的としている。これは島根大学医学部の理念である「地域に貢献する医師の養成」を具現化した教育の一環でもある。

5年生の必修地域医療実習（9月～11月）は、県内中山間地を中心とした26の医療機関に協力して頂き、5～6人20グループに分かれて2週間の臨床実習を行った。

6年生は選択地域医療実習（4月～11月）として、前述の医療機関に松江出雲圏域の12施設を加えた38の医療施設に協力を頂き、4週間を基本としながら調整し臨床実習を行った。また、平成26年度より7圏域の保健所を地域医療実習機関に加え、地域保健に関心がある学生の実習を受け入れている。

■令和3年度5年生地域医療実習病院説明会

【実施日】 令和3年7月6日（火）17：45～19：45

【場 所】 Web開催

【対 象】 島根大学医学部医学科5年生

説明会対象医療機関：26施設

座 長：佐野 千晶

説明会参加施設

地 区	施 設 名
隠 岐	隠岐病院、隠岐島前病院
安 来	安来第一病院
松江・出雲	松江市立病院、出雲徳洲会病院
雲 南	雲南市立病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院
大 田	大田市立病院、公立邑智病院、仁寿会加藤病院
江 津	西部島根医療福祉センター、済生会江津総合病院
浜 田	浜田医療センター、西川病院、浜田市国民健康保険弥栄診療所
益 田	益田赤十字病院、松本医院
津和野	津和野共存病院

■新カリキュラム総合診療・地域医療クリニカル・クラークシップ実施側説明会

【実施日】 令和3年9月28日（火）17：30～19：00

【場 所】 Web開催

【対 象】 島根県内医療機関

【概 要】 令和4年度5年生の臨床実習から新カリキュラムがスタートする。令和4年度は新カリキュラムの5年生と、旧カリキュラムの6年生が混在する過渡期となる。5年生の秋に実施していた地域医療実習（2週間）と総合診療・地域医療クリニカル・クラークシップ（2週間）の2つを水平統合し、4週間通しの「総合診療・地域医療クリニカル・クラークシップ」に変更となる。

協力機関を文書で募るにあたって、そのフレームワーク変更点ならびに本プログラム協力参加にあたって、お願いしたい点について説明を行った。

説明会参加施設

地 区	施 設 名
隠 岐	隠岐病院、隠岐島前病院
安 来	安来第一病院、安来市立病院
雲 南	雲南市立病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院、平成記念病院、永生クリニック、雲南保健所
大 田	大田市立病院、公立邑智病院、仁寿会加藤病院、川上医院
江 津	西部島根医療福祉センター、済生会江津総合病院
浜 田	浜田医療センター、西川病院、山根病院、浜田市国民健康保険弥栄診療所、浜田市国民健康保険波佐診療所、浜田市国民健康保険あさひ診療所、浜田保健所
益田・津和野	益田赤十字病院、益田地域医療センター医師会病院、松ヶ丘病院、松本医院、津和野共存病院、益田保健所
益 田	益田赤十字病院、松本医院
津和野	津和野共存病院

〈令和3年度地域医療実習教育連絡会〉

本学学生は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を、県内の地域医療機関で実習を通して学ぶ。医療全体を見渡すことのできる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深める。この地域医療実習を更に充実させるため、県内医療機関を8つのブロックに分け、地域医療教育に携わる本学医学部教員と各ブロックの実習担当者と意見交換を行っている。

地域医療教育連絡会は、新型コロナウイルス感染症の為オンラインで実施され、当講座教授が次頁表ブロックを担当した。

地区	日 時	参 加 機 関
出雲	10月11日(月)18:00	島根県立中央病院、島根県立こころの医療センター、出雲市立総合医療センター、出雲市民病院、大曲診療所、出雲徳洲会病院
安来	10月15日(金)16:00	安来第一病院
大田	10月18日(月)18:00	大田市立病院、公立邑智病院、仁寿会加藤病院
隠岐	10月25日(月)18:00	隠岐病院、隠岐島前病院
益田・津和野	10月26日(火)16:00	益田赤十字病院、益田地域医療センター医師会病院、松ヶ丘病院、津和野共存病院
松江	11月8日(月)16:00	松江赤十字病院、松江市立病院、松江生協病院、松江記念病院、JCHO 玉造病院

■新カリキュラム総合診療・地域医療クリニカル・クラークシップ学生側説明会

【実施日】 令和3年12月16日(木) 16:30～19:00

【場 所】 島根大学医学部臨床大構堂

【対 象】 島根大学医学部医学科4年生

【プログラム説明機関】 16施設(オンデマンド)

座 長: 佐野 千晶

時間	施設名	時間	施設名
17:00	隠岐病院	17:40	済生会江津総合病院
17:05	隠岐島前病院	17:45	浜田市国民健康保険診療所連合体
17:10	雲南市立病院	17:50	益田赤十字病院
17:15	町立奥出雲病院	17:55	津和野共存病院
17:20	飯南町立飯南病院	18:00	出雲市民病院
17:25	大田市立病院	18:05	出雲徳洲会病院
17:30	公立邑智病院	18:10	島根県立中央病院
17:35	仁寿会加藤病院	18:15	松江生協病院

7 地域医療体験実習 I (夏季・春季地域医療実習)

島根大学医学部では島根県と連携して、地域の医療機関での活動や連携を体験・学習し、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的とする夏季・春季地域医療実習を行っている。

コロナ禍ではあるが7圏域の保健所並びに医療機関の協力を得て実施することができた。

令和3年度地域医療体験実習 I (夏季地域医療実習)

新型コロナウイルスの第5波が到来する中、県外の学生の参加は中止になったが、7圏域の保健所と病院関係機関の協力を得て、夏季の地域医療体験実習 I を実施することができた。

学生達は今年度も一部対面授業はあるもののオンラインでの履修が続いた。臨地での実習は、同期はもちろん他学年の学生との交流も図られ、緊張の中にも期待に満ちた実習になった。



【期間】 令和3年8月16日（月）～19日（木）

報告会 8月20日（金）

保健所	地区等	日程	参加人数	
松江保健所	松江	8月16日(月)～8月18日(水)	2	
雲南保健所	雲南	雲南市立病院	8月16日(月)～8月18日(水)	3
		町立奥出雲病院	8月16日(月)～8月17日(火)	1
		飯南病院	8月16日(月)～8月18日(水)	2
出雲保健所	出雲	8月17日(火)～8月19日(木)	1	
県央保健所	県央	8月17日(火)～8月19日(木)	4	
浜田保健所	浜田	8月16日(月)～8月18日(水)	2	
益田保健所	益田	8月17日(火)～8月19日(木)	3	
隠岐保健所	隠岐	島後	8月17日(火)～8月19日(木)	3
		島前	8月17日(火)～8月19日(木)	1

参加者合計 22名

学年別内訳（島根大学）

1年	2年	3年	4年
11人	3人	5人	3人

■令和3年度地域医療体験実習Ⅰ（夏季地域医療実習）報告会

【実施日】 令和3年8月20日（金）10：00～12：00

【場 所】 Web開催

【参加者】 学生22名 教員4名

最終日の報告会はオンライン開催で、学生・教員に加えて実習関係者、しまね総合診療センターの先生方にも参加頂いた。学年の垣根を払ったディスカッションは活発に行われ、経験豊かなしまね総合診療センターの先生方のコメントは事象の意味づけや学びを更に深めるものとなった。



■令和3年度地域医療体験実習Ⅰ（春季地域医療実習）

新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が全国的に流行する中、島根県の「まん延防止等重点措置」は2月20日をもって解除された。依然感染状況は続いているが、6圏域（松江・隠岐・出雲・浜田・益田・隠岐）の保健所と27の医療機関、訪問看護ステーション・障がい者施設等の協力を得て実習を行うことになった。

他大学からは鳥取大学の1年生1名の参加があり、島根大学は1年生が10名、2年生が7名の参加となった。夏季の地域医療実習に続いて参加した学生もいたが、殆どが学内の早期体験実習以降初めての实習で、開始時は緊張の面持ちであった。

保健所で圏域の医療の概況と保健所の危機管理（新型コロナウイルス）に関してお話を伺い、それぞれの圏域医療機関に分かれ、隠岐圏域は3泊4日、それ以外は2泊3日の実習がスタートした。



【期間】 令和4年3月14日（月）～17日（木）

報告会 3月18日（金）

保健所	地区等	日程	参加人数	
松江保健所	松江	3月14日(月)～3月16日(水)	1	
雲南保健所	雲南	雲南市立病院	3月14日(月)～3月16日(水)	3
		町立奥出雲病院	3月14日(月)～3月16日(水)	2
		飯南病院	3月14日(月)～3月16日(水)	2
出雲保健所	出雲	3月15日(火)～3月17日(木)	2	
県央保健所	県央	中止		
浜田保健所	浜田	3月14日(月)～3月16日(水)	4	
益田保健所	益田	3月15日(火)～3月17日(木)	2	
隠岐保健所	隠岐	島後	3月14日(月)～3月17日(木)	1
		島前	3月14日(月)～3月17日(木)	1

参加者合計 18名

学年別内訳（島根大学）

1年	2年	3年
11人	7人	1人

大学別内訳

島根大学	鳥取大学
17人	1人

■令和3年度地域医療体験実習Ⅰ（春季地域医療実習）報告会

【実施日】 令和4年3月18日（金）14：00～16：00

【場所】 Web開催

【参加者】 学生18名 関係機関2名 教員4名

8 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）

島根の地域医療に対する理解を深めてもらう為に、学生自らが、希望実習病院にコンタクトをとり、実習内容を計画立案する実習である。今年度は、地域医療研究会を含む延べ44名の学生から申し込みがあった。しかし、計画・申請の後、島根県内の新型コロナウイルス感染症拡大のため、うち7名が実習中止となり、37名が参加した。

令和3年度地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）参加者

施設名	期間		医学科						看護科		小計	備考
	自	至	1年	2年	3年	4年	5年	6年	2年	4年		
大田市立病院	令和3年4月5日	令和3年4月7日						1			1	
益田市立病院	令和3年5月6日	令和3年5月7日					1				1	
雲南市立病院	令和3年5月6日	令和3年5月7日					1				14	
	令和3年8月18日						1					
	令和3年8月28日				1	1						
	令和3年9月3日							1				
	令和3年9月18日				1	1						
	令和3年10月27日	令和3年10月29日		1								
	令和3年10月30日						1					
	令和3年11月28日				1	2						
	令和4年2月28日	令和4年3月4日						1				
隠岐島前病院	令和3年8月2日	令和3年8月4日					1			3	中止 看護学生 受入中止	
	令和3年8月5日	令和3年8月6日					(1)					
	令和3年8月26日	令和3年8月27日	1		1			(2)				
隠岐病院	令和3年8月9日	令和3年8月10日					(1)			7	中止	
	令和3年8月23日	令和3年8月24日	3		1							
	令和4年3月16日	令和4年3月19日	1		1			1*				
浜田弥栄診療所	令和3年8月23日	令和3年8月26日	1	2	1					1*	11	
	令和4年3月23日	令和4年3月25日	2	1	3							
鳥取日南病院	令和3年8月23日	令和3年8月26日		(1)	(1)					(1)	0	中止
合計			8	4	8	3	9	3	1	1	37	

※看護学生2名については「フレキシブル実習に準じた自主企画型課外活動」として参加した。

■令和3年度前半地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会

【実施日】 令和3年6月29日（火）18：00～19：30

【場 所】 Web開催

【参加者】 学生9名、教員4名

【概 要】 令和3年2月から5月の期間に14名（1年～6年）の学生が実習に参加した。報告会では実習目標に照らし、学び・今後の課題をまとめプレゼンテーションを行った。発表毎に質問や意見交換を行い、教授からは一人一人に対しフィードバックが行われた。

参加動機はCBT・OSCE後に臨床推論の学習を深める事や初期研修候補病院での実践や環境の確認、低学年では総合診療医への関心等様々であった。領域は総合診療科と精神科で、病院内にとどまらず関連の診療所や救急外来での実習も体験させて頂き、知識・技術の側面だけでなく、患者さんへの対応から医療者としての態度についても学びが報告された。

学生の現行の学習の場で、実習時の体験が「知識としてつながる、生きた知識になっていることを実感する」という言葉が印象に残った。



■令和3年度後半地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会

【実施日】 令和3年11月30日（火）18：00～19：30

【場 所】 Web開催

【参加者】 学生11名、教員3名

【概 要】 令和3年8月から10月の期間に19名（1年～6年）の学生が実習に参加した。

コロナ禍の為、県外での実習は叶わなかったが、島根県の4医療機関（隠岐病院、隠岐島前病院、浜田市国民健康保険弥栄診療所、雲南市立病院）でお世話になった。

自らが目的を持って臨む実習に対し、協力頂く医療機関もその目的が達成できるようご配慮を頂いて、学生達の主体性に基づいた学びの大きさには毎回感動を覚える。医療機関で出会う先生方はロールモデルとなり、学年の垣根を超えた情報共有は次につながるモチベーションとなっているように感じられた。

フレキシブル実習に関する所感&提案

●違う学年の学生(友人、先輩、後輩)と行くのはめっちゃ勉強になる！

(教え合い、モチベーション維持、縦の交友関係、島大の強み)

●定期的に行くのはめっちゃ勉強になる！

(ベッドサイドでの経験値、ストリートスマート力強化)



9 大学院教育

鳥根大学大学院医学系研究科医科学専攻（博士課程）

地域医療系コース

指導教員：佐野 千晶

大学院生

池田 啓孝（総合診療専攻医）

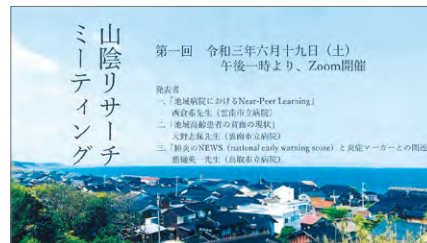
西倉 希（総合診療専攻医）

天野 志保（総合診療専攻医）

毛利 直人（総合診療専攻医）

内藤 祐美（総合診療専攻医）

山根 史子（総合診療専攻医）



■地域医療リサーチセミナー：山陰リサーチミーティング

【主催者】

鳥取大学医学部地域医療学講座／日野病院総合診療科 孫 大輔 先生

雲南市立病院地域ケア科 太田 龍一 先生

●第1回

【日 時】 2021年6月19日（土）13：00～14：30

【場 所】 Web開催

【内 容】 若手医師・医学生による Community-based research presentation

- ① 西倉 希（雲南市立病院）「地域病院における Near-Peer Learning」
- ② 天野 志保（雲南市立病院）「地域高齢患者の貧血の現状」
- ③ 懸樋 英一（鳥取市立病院）「肺炎の NEWS (national early warning score)」

●第2回

【日 時】 2021年10月16日（土）13：00～14：30

【場 所】 Web開催

【内 容】 若手医師・医学生による Community-based research presentation

- ① 佐藤裕・岡耕平（鳥根大学医学部）、天野志保（雲南市立病院）
「地域病院における後天性13因子欠乏症の診断」
- ② 堀西 祐多（松江生協病院）、清水嘉偉（府中病院）
「日本人高齢者の食道裂孔ヘルニアにおける外科的介入に関するレビュー」
- ③ 紙本美奈子（鳥取大学医学部地域医療学講座）
「心が喜ぶアート「臨床美術」で〈いきかた〉を見つめ対話する
プロジェクト（質的研究）」

2 学生支援等

1 地域医療 Webinar

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症のため引き続きオンラインで開催した。

第1回 地域医療 Webinar

- 【テーマ】 総合診療医の役割
 【実施日】 令和3年4月19日（月）18：00～19：00
 【講師】 島根大学医学部総合医療学講座／
大田総合医育成センター講師 木島 庸貴 先生
 【参加者】 14名
 【概要】 先生は大学病院での診療経験はもとより、現在

大田市立病院と診療所で診療に携わられている。総合診療専門医の定義を具体的に示され、加えてプライマリ・ケアの5つの理念を説明頂いた。その上で、現在先生が診療されている場の役割の違いと、そこに受診する患者の特徴をお話し頂き、総合診療医の立ち位置の違いがあることを学んだ。また、個人の健康問題に及ぼす影響の数々は生物学的側面だけを診ては解決しえない「扱う問題の広さと多様性」があることも分かった。中でも「総合医療医としてのケアする力」や「自分のアンテナ力の質の向上」という言葉が印象に残った。

講演終了後、学生からも多数の質問が寄せられ、誠実に丁寧に答えて下さる先生のお人柄に触れて、学生達の総合診療医に対する関心はさらに高まったものと思われる。



第2回 地域医療 Webinar

- 【テーマ】 在宅医療と肺炎
在宅での新型コロナウイルス感染症への対応と
疾患終末期の肺炎の緩和ケア
 【実施日】 令和3年5月17日（月）18：00～19：00
 【講師】 東京ふれあい医療生活協同組合 研修研究センター
センター長 平原 佐斗司 先生
 【参加者】 14名
 【概要】 新型コロナウイルス感染症の第4波が到来する中、在宅医療最前線の現場からお話し

頂いた。在宅医療は、末期がん患者の緩和ケアや非がん疾患・高齢者のEOL等に加えて、近年医療にアクセスできない人へのアウトリーチの重要性が高まっているそうである。先生はコロナ対応も感染症に端を発した災害と捉えていると話され、在宅緩和ケアの中心が認知症を核としたmultimorbidityの高齢者に移りつつある中、医療にアクセスできない高齢者が増えていることを危惧されていた。

在宅医療では、終末期最大の苦痛である肺炎症状に強い緩和ケアのニーズがあり、高齢者に多い誤嚥性肺炎と新型コロナウイルスによる肺炎について、症例を通して治療の実際をご教示頂いた。また、肺炎によるサルコペニア嚥下障害や認知機能の悪化等に対し、積極的なりハビリテーションの必要性等多くの学びを得た。



第3回 地域医療 Webinar

【テーマ】 地域で働く～こんな時あなたはどうしますか～

【実施日】 令和3年6月8日（火）18：00～19：00

【講師】 浜田市国民健康保険あさひ診療所
所長 上野 伸行 先生

【参加者】 20名

【概要】 先生は2症例を提示され、学生に「こんな時どうしますか」と問いかけ、対話をしながら双方向型で進められた。

症例から、総合診療医は疾患だけに焦点を当てるのではなく、病を持ったその人に向き合い、病が個々人の生に及ぼす影響をも含めて対象を総合的に捉えることが大切であるご教示頂いた。医学的に捉える疾患は個人から臓器・組織・細胞の方向にベクトルを伸ばすが、総合診療医は、疾患は押さえた上で、個人・家族・地域へのベクトルを持ち、地域全体の健康問題に関わることの重要性を図で示された。

最後に、医師として医学を学び続けなければ、患者さんは安心して地域で過ごすことはできない。その人の価値観や背景にあるものを知って、その人にとって何が一番幸せなのか考えながら診療することが地域で働く醍醐味であると締めくくられた。



第4回 地域医療 Webinar

【テーマ】 Inaka Doctor

～山の中で奮闘する。寄り添える命がある限り～

【実施日】 令和3年7月20日（火）18：00～19：00

【講師】 飯南病院 医長/来島診療所 所長 松本 賢治 先生

【参加者】 13名

【概要】 先生は飯南病院にご勤務されて5年目の総合診療医である。医師は外来・入院診療のみならず、訪問診療、健診、学校医等様々な役割を担われている。多職種との連携が欠かせずコミュニケーションが重要な要素であると話され、そこには専門職との顔の見える関係の構築が伺えた。

先生は総合診療医について専門医との違いを、疾患の治療を優先する専門医に対し、総合診療医は患者さんの生活を主体に支える事にウエイトを置くと説明された。また、総合診療の魅力は「その人の人生に伴走する。その人の想いに寄り添う」と表現された。

最後にネイティブアメリカンの教で「目を奪われるもの…中略…しかし、心を奪われるものだけを追い求めなさい」というメッセージが学生に贈られ、自分の思い描いている医師像を作って、それに正直に道を進んだらよいと締めくくられた。



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

第5回 地域医療 Webinar

- 【テーマ】 ①価値観が変わる？ ちょんぼしい話
～ Island Doctorは本当に幸せなのか～
②初代チーフレジデントの活動
- 【実施日】 令和3年8月26日（木）18：00～19：00
- 【講師】 島根県立中央病院 坂口 公太 先生
隠岐広域連合立隠岐病院 小川 将也 先生
- 【参加者】 36名

【概要】 講演は、坂口先生がファシリテーターとなり、隠岐病院に赴任されて3年目になる小川先生が離島での診療の状況や医師としての成長をもたらした2症例、プライベートをご紹介頂いた。テーマの「ちょんぼしい話」の『ちょんぼし』は隠岐の言葉で「ちょっと」の意味だそうで、学生にとってはちょっといい話がちりばめられた内容であった。また、副題の「Island Doctorは本当に幸せなのか」は意味深な問いかけであったが、その答えは講演早々に「仕事とプライベートを充実させたい方は隠岐へ」とPRに転じられた。オンライン開催の講演は、学生への問いかけや回答など参加型で、視聴頂いている先生方からのメッセージもチャット上で飛び交う等双方向性で行われた。先生方からは経験値から発せられる医師としての対応や姿勢についてメッセージを頂いた。



第6回 地域医療 Webinar

- 【テーマ】 2021年度版 地域の小規模多機能病院について
- 【実施日】 令和3年9月3日（金）18：00～19：00
- 【講師】 気仙沼市立本吉病院 病院長 齊藤 稔哲 先生
- 【参加者】 21名

【概要】 受療行動の図から「地域医療とは、1000人の住民全てを対象に、200人の外来診療をしながら10人の重篤な病気の発生を予防する活動」と説明頂いた。ある日の外来をご紹介頂き、対象を限定しない「インフラとしての医療」が印象に残った。またBio-Psycho-Social modelについて症例を用いて説明頂き、患者さん一人ひとりの背景にあった医療の提供がある事を学んだ。

地域医療とは欠けているピースを探して、そこを埋めていく作業で、本吉病院ではコロナ対応について入院以外の「①発熱外来②検査③ワクチン接種」を担われている。地域の弱い部分を補強し全体のバランスがとれた医療の提供が出来るよう調整していく事が大事であると学んだ。

最後に総合診療医の役割を「幸せの基盤となる生活を住民と一緒に作っていく事」と説明され、全てお話がここに集約されている事に感動を覚えた。



第7回 地域医療 Webinar

- 【テーマ】 地域医療を諦めてしまいそうなキミに捧ぐ
頑張るキミのそばには、きっとステキな仲間が集まる
- 【実施日】 令和3年10月26日（火）18：00～19：00
- 【講師】 隠岐広域連合立島前病院 木田川 幸紀 先生
- 【参加者】 62名
- 【概要】 講演はまるで令和版オンライン落語を聞くが如く、木田川先生の学童期から現在までの成長を支えてた人たちと交わされる会話や心の叫びがスライドとあわせ情景豊かに語られた。



特に印象に残ったのは、医師になって5年目の自分自身を俯瞰的に捉えまとめられた「成長しない医者」の典型例 ①知ったかぶりをする ②自分に甘い ③格好をつける ④できるふりをするのが上手 ⑤短絡的 ⑥困った時に相談するのは苦手 ⑦疑問の解決法がわからない」である。これらは、医師になろうとする学生達にとって必見の内容であった。この7項目は裏返せば、先生ご自身が5年間で様々な経験をし、指導医の先生方からのフィードバックを受けながら、多様な視点から振り返る内省があってこそ導き出されたものであり、経験を学びに変えて成長された証でもあるように思われた。

第8回 地域医療 Webinar

- 【テーマ】 診療看護師について（ナースプラティクショナー）
～ from Global to Local Perspective ～
- 【実施日】 令和3年11月26日（金）18：00～19：00
- 【講師】 雲南市立病院地域ケア科 診療看護師 木村 千尋 先生
- 【参加者】 36名
- 【概要】 木村先生は大学を卒業後2年の臨床を経て渡米され、ナースプラティクショナー（NP）修士課程に学ばれ、NPの免許を取得された。高齢者施設等で働かれた経験をお持ちで、2016年に帰国されている。



最初に国際看護協会の定義からNPを高度実践看護師と紹介され、米国でのNP誕生を歴史からひも解いて下さり、日本の教育課程や資格と対比しながら、法制化の問題も含め、わかりやすくお話し頂いた。

NPとしての誇りを持ち、多職種と連携・協働しながら得られる成果やそこから生まれるやりがいや語られる先生の声には、情熱と看護職の未来を切り開く力強さが感じられた。おそらくそこに協働する看護職・学ぶNPの学生との間にも、エビデンスを持ってケアすることや学ぶことの喜びが反応となって相互に作用し、看護のアイデンティティの醸成に繋がっているように考える。

鳥根大学医学部地域医療支援学講座

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

第9回 地域医療 Webinar

【テーマ】 在宅医療を支援する ～加藤病院のモバイルヘルスケア～

【実施日】 令和3年12月8日（水）18：00～19：00

【講師】 社会医療法人 仁寿会 加藤病院
診療部長 山口 拓也 先生

【参加者】 18名

【概要】 モバイルヘルスケアとは地域に届けるヘルスケアサービスの総称で、ヘルスプロモーションカー等で訪問・巡回診療等を行うことを言うそうである。

加藤病院では院内に連携拠点を整備し、医療と介護の一体化を実現して、チームを組んで総合的在宅ケアサービスを提供されている。実習時には多職種連携の細やかな情報共有場面等を学んで欲しいと話された。

患者にとっての在宅医療のメリットや訪問診療の場面を写真で紹介下さり、「対象との信頼関係の構築が大事である」と話される通り、そこには患者さんの穏やかな表情が見られ、その場の空気感が伝わった。

最後に理事長の「“つながる”を大切に」のメッセージで締めくくられた。地域・地域に暮らす対象者・そして協働する職員間に確かなつながりが感じられ、医療者の姿勢をお教え頂いたお話しであった。



第10回 地域医療 Webinar

【テーマ】 災害医療をするということ

【実施日】 令和4年1月11日（火）18：00～19：00

【講師】 国立病院機構本部 DMAT 事務局（災害医療専門職）
小早川 義貴 先生

【参加者】 35名

【概要】 先生はこの度の新型コロナウイルス対策において、武漢帰国者・ダイヤモンドプリセス号等の対応にも当たられ、今でこそ話せるエピソードを交えお話し頂いた。また、厚労省がクラスター対策班や地域支援班を作り、その一部をDMATが担い感染制御と同時に業務継続に係る体制整備を行い、医療崩壊寸前の各地で実際に訪問診療に出向く等、取り組みも紹介頂いた。

災害死についても説明頂き、災害を引き起こすハザードのみの対応では多くの命は救われず、災害によって引き起こされる生活の変化等混乱からもたらされる死を適切なマネジメントの提供により防がねばならないと教示頂いた。しかし、残念ながら亡くなるケースがあり、どうしたら尊厳ある死を提供できるのか考えてやってきたと話され、災害医療の最前線に立たれる先生の言葉は重く、医療者の姿勢として深く感銘を受けた。



2 Career Webinar

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症のため引き続きオンラインで開催した。

第1回 Career Webinar

【実施日】 令和3年4月20日（火）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部附属病院感染制御部
専任医師 城 有美 先生

【参加者】 15名

【概要】 先生は高校時代、自身が交通事故にあわれた経験から医師を志し、島根大学に入学された。「外傷医になりたい」と初期臨床研修後、3次救急を扱う救急救命センターで研修され、重症患者や熱傷の患者さんを診ながら感染症と戦い、「免疫・感染って面白い!!」と興味をひかれていったそうである。

島根に戻りER⇒総合診療⇒血液内科と専攻されていったが、その中でも感染症の管理の重要性と面白さに気付かれる。様々な科を専攻されるも、根底には感染症との戦いやその興味がつきることなく現在へ繋がっているのだと感じた。

先生は現在、救急医、血液内科のダブルボードで専門医を取得されている。自身の興味を深めて、ベストな選択をする生き方が素敵と感じた学生も多いであろう。



第2回 Career Webinar

【実施日】 令和3年5月10日（月）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター
教授 林 健太郎 先生

【参加者】 13名

【概要】 学生に伝えたいこととして、2部構成で1部は前任地の長崎と医療に関する歴史、2部は先生がキャリアをどのように積まれてきたのか、その転機となった出来事からメッセージを頂いた。

1部は、歴史から学ぶメッセージとして印象に残ったのは、ポンペの医の真髓を教えた言葉「(略) 医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。(略)」と、島根県出身の永井 隆博士の「如子愛人」の精神であった。

2部では、キャリアについて5段階に分けてお話し下さり、研究者・臨床家としての論文等業績をご紹介頂いた。

最後に、キャリアとは偉くなる手段ではなく、其々のステップでベストを尽くした結果であるとまとめられ、中でも記録の重要性＝論文と異文化に触れる留学を勧められ、業績が物語るtake-home messageであった。



第3回 Career Webinar

【実施日】 令和3年6月14日（月）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部眼科学講座
医科医員 持地 美帆子 先生

【参加者】 8名

【概要】 持地先生は滋賀県のご出身で、ご主人の転勤を機に2017年島根県に移住された。1児の母親・妻・大学院生・眼科医の4つの顔を持ちながらも、子育てと仕事を上手く両立されている。

先生は、医師になった理由・なぜ眼科医に・結婚の決め手・大学院へ入学を決めた理由・子育てと仕事の両立・人生プラン等全7項目について、とてもフランクにお話し頂いた。

いずれの役割にも、ご自分のエネルギーを上手く配分し、心に余裕を持たせておられることに感心した。また、なりたい姿やありたい自分を実現するために、自ら動き周囲の協力を獲得して実現されるパワーにも魅了された。多忙な医療現場における女性医師のワークライフバランスの一例をお示し頂き、学生には自分のライフイベントとキャリアデザインを考える上で見のCareer Webinarになった。



第4回 Career Webinar

【実施日】 令和3年7月15日（木）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部精神医学講座
講師 大脳 孝治 先生

【参加者】 23名

【概要】 先生は山口大学のご出身で2016年から島根大学にご勤務である。「精神科医からのメッセージ」と題してお話し頂いた。

精神科医の仕事について疾患やその治療の特徴からお話し頂き、特に印象に残ったのが「他科と違うのは、症状だけ診ていては本質的に良くならない、人は心理機能が発達する中で様々な経験をし、その養育環境が全く違うストーリーを描くため、生活史を踏まえ『その人』を総合的に診る」であった。その人個人の尊厳を守り、患者の視線に立って寄り添い関わることから生まれる信頼関係や全人的医療が精神科医療では重要であることを学んだ。

また、先生の経験則から「大切なこと10箇条」と「負を耐える力」をメッセージとしてお贈り頂いた。これからの人生に示唆を与える重要なワードをご教示頂いたように考える。



第5回 Career Webinar

【実施日】 令和3年9月6日（月）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部内科学講座内科学第三
教授 長井 篤 先生

【参加者】 18名

【概要】 先生は2019年9月に内科学講座第三の教授に就任された。学生時代を含めご経歴を振り返り「挫折を飛躍に変える」「師の良いところを学べ」「診療を楽しむ 研究を楽しむ」等のメッセージを頂いた。

印象に残ったのは大学の4年次にバイクでアメリカ大陸を横断された事である。旅の道中には沢山の苦難があったものの、色々な人の助けを受け、この体験が後々の人生に生き、自分の自信になっていると話された。

また、研修医・大学院生時代や国内・海外留学時代には良き師との出会いがあり、現在の診療・研究に繋がっていると話され、その出会いを「人生の転機」「邂逅」「偉大な人は皆まめ」と表現された。

最後に「自分のやりたいことを楽しみ、臨床・研究に臨んで貰いたい。身近な先生をメンターに医師としての人生も豊かにして行って欲しい」と結ばれた。



第6回 Career Webinar

【実施日】 令和3年10月20日（水）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部膠原病内科学講座
助教 本田 学 先生

【参加者】 16名

【概要】 先生が膠原病に興味を持たれたのは「薬物治療に興味があった、治療によって患者さんが良くなる、病気に対し理論的に対応していくのが良い」が切っ掛けだったそうである。

初期研修で様々な診療科に関心が向き入局科が絞りが切れず「最後に自分にとって悪いところを探す減点・消去法をもって決めたのが膠原病内科で、大きな大志を抱いて入局したわけではない」と謙遜して話された。

進路に悩んでいる人に「運命では決まらない、面白そう・反対に自分には合わない等、なぜ自分はそう思うのか、自分の根っこ部分に隠れた物差しを見つける事が大事だ」と自己との対峙の必要性を話された。

最後に膠原病内科について、著名な先生の言葉を借りるならば『直接命を救うことは少ないかもしれないが、患者さんの人生を救う仕事』であり、そこにやりがいがあると締めくくられた。



第7回 Career Webinar

【実施日】 令和3年11月15日（月）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部病理学講座 器官病理学
教授 門田 球一 先生

【参加者】 17名

【概要】 先生は自己紹介で、お名前が球一であるが野球は得意ではない事、愛媛県の出身で島根県が初めての本土上陸での生活である事等ユーモアたっぷりに話され、会場が一瞬にして和むのが感じられた。

呼吸器病理学がご専門の先生は、これまで臨床的な治療方針の決定に影響を与える病理組織所見を発見する等、その業績が日本のがん取扱規約やWHOの腫瘍分類に記載される輝かしい功績を残されている。病理診断は診療において最終診断として扱われる為、臨床医との密なコミュニケーションが重要であると話された。

また、留学について、研究の魅力を知るための良い機会で色々な海外の事を知る上でも経験として大事であるのご自身の留学からその意義を伝えられた。

最後に今後の研究をご紹介頂き、学生からは将来の進路の選択肢の1つとして大いに参考になったと感想が寄せられた。



第8回 Career Webinar

【実施日】 令和3年12月22日（水）12：15～12：45

【講師】 島根大学医学部小児科学講座
准教授 鞆嶋 有紀 先生

【参加者】 18名

【概要】 先生は育児経験を通して、20年の小児科医のキャリアをもってしても、想定外の事ばかり起きたと話され、母親・職業人としての自己嫌悪や小児科医としての矛盾等もお話し頂いた。そこから気付いたピットホールとして、「男女共同参画と言いながらも現況はどれだけ“女性”が仕事と育児を両立させるかに焦点が当たっている？男性はないのか？」と提起された。

学生へのメッセージとして、男子学生には「家事育児への参加、支える側への支援も必要、男女同等にキャリア形成する権利がある」、女子学生には「育児や家事は全部しなくてよい、キャリアを維持する意志、男化もしくは遠慮する生き方ではなく“自分”で働く」と贈られた。

最後に「時代はダイバーシティ社会に突入している。まずはそれぞれの意識変革から始まる。皆さん一人一人が歴史をつくる。」と結ばれた。



第9回 Career Webinar

【実施日】 令和4年1月26日（水）12:15～12:45

【講師】 島根大学医学部泌尿器科学講座
教授 和田 耕一郎 先生

【参加者】 23名

【概要】 先生は令和3年8月にご出身の岡山大学から当医学部泌尿器科学講座の教授として着任された。先生の和顔の広報用ポスターが張り出されてから、気になるのは『ウロの〇〇ハンパないって！』のテーマであった。「泌尿器科の〇〇」と想像しながら、心を掴まれ待ったお話であった。

ハンパないお話は、〇〇に8つのワード「①守備範囲」「②需要」「③疾患数」「④早熟感」「⑤感動」「⑥やりがい」「⑦魅力」「⑧島根愛・楽しさ」が入った。度肝を抜かれるほどテンポよく講座をご紹介頂き、その端的な表現と「自撮りのドヤ顔写真」付きのスライドはインパクト満載であった。最後に医局員全員の写真が映し出され、「ウロの一体感・充実感ハンパないって！」と締めくくられた。

敬意を表しテーマ文をお借りして感想を申し上げるならば、入るワードは「教授のプレゼン」!!



第10回 Career Webinar

【実施日】 令和4年2月9日（水）12:15～12:45

【講師】 島根大学医学部整形外科学講座
医科医員 佐藤 匡哉 先生

【参加者】 23名

【概要】 先生は7年目の整形外科専門医で大学院生でもある。

講演は、高校からの進路選択・大学時代・初期臨床病院の選択・整形外科医としてのキャリア形成過程を、その時々でどのように考え、現在に至るのか丁寧にお話し頂いた。学生達には漠然と描く自己のキャリアプランをどのように形にしていけばよいのかご教示頂いたように考える。

初期臨床研修病院の選択に当たっては、“一人で当直ができる力を養う”を目標に、“救急医療が充実している・ほぼ全ての科がある・Common Diseaseが診れる・同期が多い病院”ということを重視されたそうである。「ゼロをイチにすることをどの診療科でも意識し学んだ」という言葉が印象に残った。

整形外科学講座のご紹介では、「整形外科のニーズは極めて高く、やりがいがある。6年次の臨床実習に臨んで欲しい」とメッセージを贈られた。



第11回 Career Webinar

【テーマ】 Stay hungry, Stay foolish.

【実施日】 令和4年3月1日（火）12:15～12:45

【講師】 島根大学医学部病理学講座 病態病理学
教授 並河 徹 先生

【参加者】 65名

【概要】 先生は医学部長を歴任されるなど島根大学に長きにわたってご尽力してこられた。講演は、学生・教職員を含め42名の事前申し込みがあり、開催前から大変な反響であった。

進路について「自分には何が向いているのかと悩みを持つことは誰でもあると思う。何に向いていたかは事後的にしか決まらないので、余計なことは考えないで、やりたいことをした方が良い。わからないときは偶然に委ねるのも良い。ただし全力で取り組むのが大切だ」と話された。更に「私淑できる先輩や先生・共感できる友人を見つけることが大切で、いろんなことをやってみる姿勢も大事だ」と付け加えられた。

また、「海外に出て自分が“外国人”になること、“ムダ”に思える勉強にも取り組んでほしい」と話された。

進路に悩みを持つ学生のみならず、若手医師にも心に留めておいてほしいお話であった。



3 社会医学系専門医の魅力がわかるケーススタディ プロジェクト Social medicine（しまね公衆衛生の会）

社会医学は、社会システム全体を変革し、人の生（いのち）を衛るための医学であり、社会医学系専門医とは「1億2千万人の生（いのち）を衛る」専門医である。社会医学系専門医は平成29年度からプログラムが開始されており、全国でも多くの専攻医が登録している。

社会医学に興味・関心がある学生や医師に対し、月に1回みらいラウンジにおいて社会医学系の専門医によるケーススタディを行っている。

なお、1～3月は、新型コロナウイルス感染症の拡大・対応のため、中止となった。

社会医学系専門医の魅力がわかるケーススタディ

実施日	時間	内 容	講 師	出席者 (学生)
4月24日	16:00 17:30	島根の健康づくり施策のリニューアル～しまね健康寿命延伸プロジェクト始動～	島根県健康福祉部 医療統括監 谷口 栄作 先生	11(6)
6月26日	16:00 17:30	新型コロナウイルス感染症事例から学ぶ	島根県隠岐保健所 所長 柳楽 真佐実 先生	13(4)
7月31日	16:00 17:30	社会医学系医師として行政、保健所を垣間見て	島根大学医学部 環境保健医学講座 准教授 田村 太郎 先生	15(4)
8月28日	16:00 17:30	医療機関を支援するための制度づくり	島根県健康福祉部 医療政策課 藤井 俊吾 先生	11(3)
10月2日	16:00 17:30	浜田保健所における新型コロナ対応	島根県浜田保健所 所長 村下 伯 先生	13(2)
10月23日	16:00 17:30	島根県で公衆衛生医をどう育てるか ～一人一人の希望を叶える公衆衛生医の育成～	島根県健康福祉部 医療統括監 谷口 栄作 先生	13(4)
11月20日	16:00 17:30	一挙見せます！ 保健・医療・介護統合分析システム EMITAS-G で分析したこと大集合 SP「エミタスって結局何が出来るの？」にズバリお答えします!!! …でも医療系が多いよ	雲南保健所 医療専門員 上野 明則 先生	10(2)
12月25日	16:00 17:30	一挙見せます！ 保健・医療・介護統合分析システム EMITAS-G で分析したこと大集合 SP「エミタスって結局何が出来るの？」にズバリお答えします!!! …でも医療系が多いよ	雲南保健所 医療専門員 上野 明則 先生	16(4)

4 ビデオセミナー

学生に対して幅広く勉強する機会を増やすと共に、職員の医学知識のブラッシュアップも目的に、週1回昼休憩の12時から30分程の間、地域医療支援講座スタッフルームでビデオ上映をしている。

上映日	シリーズ名	タイトル	講師
4月20日	肩腰膝の痛みをとる Dr. 究のあなたもできる トリガーポイント注射	第3回 肩痛で触れるべき筋肉	齊藤 究 (さいとう整形外科 リウマチ科 院長)
4月27日		第4回 腰痛はヘルニアを探すよりも筋肉を触る	
5月11日		第5回 膝痛では大腿から下腿まで触る	
5月18日		第6回 頭痛のトリガーポイント	
5月25日		第7回 胸痛・腹痛のトリガーポイント	
6月1日	Dr. 林の笑劇的救急問答 14上巻 意識障害編	第1回 低血糖忘れたところにやってくる「食後にぼーっとし始めた70歳男性」	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院総合診療部 教授)
6月8日		第2回 目は口ほどにモノを言う「声をかけても反応がない15歳男児」	
6月15日		第3回 この所見しんばいだなあ「会話が噛み合わず昏睡になった65歳女性」	
6月22日		第4回 酔っぱらいをなめんなよ!「駅前で倒れていた酩酊状態の40歳男性」	
6月29日	Dr. 林の笑劇的救急問答 14下巻 頭痛編	第5回 Red Flagを見逃すな「夜中に頭痛で目が覚めた19歳女性」	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院総合診療部 教授)
7月6日		第6回 疑わなければ始まらない!「5日前から頭痛を繰り返す46歳男性」	
7月13日		第7回 ブンブン振ってもわからない「頭痛と痙攣を発症した透析中の46歳女性」	
7月20日		第8回 おとなしいのか騒がしいのかそれが問題だ「持続する頭痛と嘔吐の26歳女性」「暴れるほどの激しい頭痛の35歳男性」	
7月27日	脊髄、末梢神経の検査	上肢の検査、下肢の検査、脊髄障害の高位診断	小山 素磨 (脊髄疾患臨床研究所) 秋口 一郎 (武田病院神経脳血管センター所長)
9月7日	脳神経一診察法と異常所見	脳神経の構造と主な機能、脳神経の診察と異常所見	服部 孝道 (千葉大学名誉教授 医療法人同和会 理事長)
9月14日	失語症 ブローカ失語とウエルニッケ失語	症例1～症例4 ブローカ失語(中等度)～ウエルニッケ失語(重度)	綿森 淑子 (広島県立保健福祉大学 名誉教授)
9月21日	失語症 様々な臨床象	症例5～症例8 失語症(非典型・中等度) ～失語症(非流暢型・中等度)	原 寛美 (相澤病院総合リハビリテーションセンター センター長)

上映日	シリーズ名	タイトル	講師
9月28日	めまい 診断法と 異常所見	めまいのメカニズム、めまいの診断法、 めまいを起こすさまざまな疾患	加我 君孝 (国立病院機構東京医 療センター 感覚器センター長 東京大学名誉教授)
10月5日	Dr. 林の 笑劇的救急問答 15 上巻 腹痛編	第1回 この腹痛! 原因がわからない持続する 激しい腹痛と嘔吐の6歳男児	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院総合診療部 教授)
10月12日		第2回 コワイ腹痛! お腹が柔らかいののに? 臍周囲の痛みを訴える75歳男性	
10月19日		第3回 身じろぎできない腹痛! 急性腹症? 1週間も便が出ない85歳女性	
10月26日		第4回 痛みに波がある腹痛! 腸閉塞? 2日前 からの右大腿部痛が悪化した80歳女性	
11月2日	Dr. 林の 笑劇的救急問答 15 下巻 腹痛編	第5回 腹痛の原因は! 病態生理で考える 持続する心窩部痛を訴える40歳女性	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院総合診療部 教授)
11月9日		第6回 その腹痛! 筋骨格・皮膚・神経も考えよう 左下腹部痛を訴える60歳女性	
11月16日		第7回 腹痛なのに! 全身性疾患・慢性疾患って 反則? 腹痛と嘔吐を訴える6歳男児	
11月30日		第8回 腹痛は遠方より来る? 左下腹部痛で騒ぐ13歳男児	
12月7日	Dr. 林の 笑劇的救急問答 16 上巻 肺炎編	第1回 肺炎球菌はチンピラ? 肺炎で転院された70歳男性	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院総合診療部 教授)
12月14日		第2回 マイコプラズマはかわいい? 咳が止まらない30歳男性	
12月21日		第3回 レジオネラは麻薬の運び屋? 発熱、咳、腹痛の80歳男性	
1月11日		第4回 ごえんしたら誤嚥性肺炎? 朝から様子がおかしい90歳男性	
1月18日	Dr. 岡の感染症 プラチナ レクチャー 市中感染症編	第1回 感染症診療の8大原則	岡 秀昭 (埼玉医科大学 総合医療センター 総合診療内科・ 感染症科 准教授)
1月25日		第2回 市中肺炎 初期診療アプローチ	
2月1日		第3回 市中肺炎 治療経過と合併症	
2月8日		第4回 単純性尿路感染症	
2月15日		第5回 複雑性尿路感染症	
2月22日		第6回 感染性腸炎	
3月1日		第7回 肝胆道系感染症	
3月8日		第8回 細菌性髄膜炎	
3月15日		第9回 感染性心内膜炎	

5 1年生 キャリアガイダンス（キャリア形成プログラム説明会）

将来、医師としてのキャリア形成と地域枠等の義務履行の両立が図られるよう、ガイダンスを通じ医師のキャリア形成とキャリア形成プログラムについて理解することを目的に、しまね地域医療支援センターの主催で行われた。

当講座の教授が「医師のキャリア形成～入門編～」「知ってますか診療科」について、説明を行った。

【実施日】 令和3年5月24日（月）17：30～18：30

【場 所】 Web開催

【対 象】 島根大学医学部1年生のうち、地域枠等の特別選抜枠での入学者及び県の奨学金貸与者



6 学生等個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談ならびに必要なに応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談や必要に応じて指導を行っている。

令和3年度面談実施者のべ数： 166名（3月17日時点）

令和3年度 地域枠等学生数

（ ）は奨学金なし

		学生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	(一般)	6	5	10	10(1)	11(3)	9	51(4)
	(学士)	—	1	2	—	—	—	3
緊急医師確保		9	7	4	5	5	7	37
県内定着		3	9	4	7	8	9	40
地域枠等合計		18	22	20	22(1)	24(3)	25	131(4)
奨学金のみ		0	1	4	1	5	5	16
奨学金のみを含めた合計		18	23	24	23(1)	29(3)	30	147(4)

7 サークル活動支援等

当講座ではサークルや個人の活動対し場所の提供と必要に応じて相談に乗る等の支援を行っている。

(1) サークル活動支援

■第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（学生セッション活動報告部門）参加

【実施日】 令和3年5月22日（土）

【場 所】 Web開催

学生セッションの活動報告部門において、医学科6年の白鳥博之さん（SiPS代表）が最優秀発表賞を受賞した。昨年の研究部門最優秀発表賞に続く2年連続の受賞となった。

【タイトル】

「学生が主導で多職種連携を実践するSiPSの立ち上げと活動～コロナ禍の1年を振り返って～」

【受賞の言葉】 6年 白鳥 博之

今回は、栄誉ある賞をいただき本当に嬉しく思います。この賞は、発表者が1人で行ったことでも成し遂げたことでもありません。スライド作成から発表原稿の作成にあたってメンバーと共に、発表の前日、夜まで話し合い、多くの人の想いや関わりを何よりも大事にしてきました。そして、この賞をもらうために活動しているわけではなく、今回をきっかけにまた新しい取り組みに繋がるのではないかとワクワクしています。これからもSiPSを宜しくお願いします。



(2) 個人活動支援

■第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（学生セッション研究部門）参加

【実施日】 令和3年5月22日（土）

【場 所】 Web開催

学生セッションの研究部門において、島根大学医学部医学科6年の西川香澄さんが最優秀発表賞を受賞した。

【タイトル】

「総合診療教育における医学生が感じる理想と現実の乖離：質的研究」

【受賞の言葉】 6年 西川 香澄

この度は、名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。熱心にご指導して頂いた先生方や、インタビューに協力して下さいました学生の皆様



に心より感謝申し上げます。この研究を通して、総合診療に対して医学生が抱いているイメージの本質に迫ることができ、今回の発表で沢山の方々に伝えることができたこと、大変嬉しく思っております。この研究で明らかとなった医学生の声は、今後の総合診療教育にとって非常に意味のあるものになったと思っております。今回の受賞を励みにして、今後もより一層精進していきたいと思っております。

■学生企画 社会を知るための学生座談会（ヤングケアラーについての意見交換会）

【テーマ】 “ヤングケアラー” って知っていますか？ ～見えないSOSを考える～

【実施日】 令和3年12月17日（金）19：00～20：00

【場 所】 みらい棟1階 みらいラウンジ（Web併用）

【概 要】 ヤングケアラーについて関心のある学生による座談会を行った。

座談会を終えて

島根大学医学部医学科 ペンネーム：降留 墨輝 さん

この度地域医療支援学講座のご助力を得て「ヤングケアラー」というやや重たいテーマで座談会を開催しました。自分の考えや思いを、データを添えて言語化するのは良い経験でした。

さて、私は今回裏テーマとして「知ること」を設定していました。医療従事者として社会参画するには専門知識は大前提であり、そのことは日々の臨床実習で私も痛感する所ですが、医療提供に先立って目の前の物事を理解しようとする姿勢もまた不可欠だと感じています。そのためには医療の枠に囚われず色々なことを知っておくことが必要です。仮に自分に不都合なことを知ったとしても、そこにはその後の行動を選択する余地が生まれます。だから私は知り続けていきたいです。

参加頂いた学生さんからは、新たな知見を得られて良かったと感想を頂きました。また、自分の知らない所でこの会が誰かの背中を押していたことを後日知り、普段おちゃらけている私の柄にもない活動も満更悪くなかったと思う次第です。



8 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師、企画委員長を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行い、キャリアプランの作成支援を行うとともに、レジナビ、マッチング説明会などにも積極的に関わっている。

また、しまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療専門医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。

		研修医					医師計
		初期 1年	初期 2年	後期 1年	後期 2年	後期3年 以降	
地域枠	一般	5	6	11	10	45	77
	奨学金なし(再掲)	0	0	0	0	9	9
	学士	1	2	1	4	5	13
	奨学金なし(再掲)	0	1	1	3	2	7
緊急医師確保		5	3	7	6	10	31
県内定着		5	6	7	4	6	28
地域枠等合計		16	17	26	24	66	149
奨学金なし(再掲)		0	1	1	3	11	16
奨学金のみ		7	11	8	8	34	68
奨学金のみを含めた合計		23	28	34	32	100	217
奨学金なし(再掲)		0	1	1	3	11	16

9 高大連携活動

高校生が島根の地域医療に興味を持つような取り組みに力を入れており、令和4年3月5日(土)に実施された「第3回しまね総合医療の集い」には7人の高校生が参加し、オンライン聴講を行った。

3 地域医療交流サロンの取り組み

1 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

平成22年に学内に「地域医療交流サロン」を設置した。ここでは現在みらい棟2Fの当講座スタッフルームの向かいにあり、地域卒推薦入学等の学生と行政・医療機関との交流、学生と当講座教員との面談、地域医療関係のサークル活動等に利用されている。学生が地域の行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作ったり、地域医療のモチベーションを維持させたりするのに大いに役立っている。さらに「地域医療交流サロン」には各学会誌や島根大学関連情報誌の掲示に加え地域医療、公衆衛生、統計学等に関する1214冊の蔵書があり利用者も多い。また、何も予定がない時には学生の学習の場所としても頻繁に活用されている。

みらい棟1Fに設置された「みらいラウンジ」には県内の行政・医療機関の広報誌を掲示し、学生への情報提供の場としても一役を担っている。



2 地域卒等特別選抜卒新入生島根県副知事表敬訪問

【目的】 将来、島根県の地域医療に貢献することを期待されている島根大学医学部地域卒等の学生が知事（副知事）を表敬し、激励を受けることで、学業及び地域勤務に対する意識の醸成及び向上を図る。

【実施日】 令和3年4月6日（火）13:30～13:50

【参加者】 地域卒等特別選抜卒 新入生13名、教員4名

式典は、最初に佐野教授より今回の訪問の趣旨及び入学生の紹介があり、続いて3名の学生が、これからの学生生活や卒後の地域貢献について決意表明を行った。松尾紳次副知事からは、高い志をもって入学した学生達を称賛する言葉が贈られ、島根県の医療及び医師不足の現状や学生への支援についてお話があった。最後に充実した学生生活を送るよう激励を賜り、改めて特別選抜卒の学生としての自覚を一人一人新たにしたものと思われる。





3 松江市民病院・松江生協病院・松江赤十字病院見学

地域枠等特別選抜枠の新入生が島根県副知事を表敬訪問するのに併せ、午前松江市内実習施設の3病院を見学させて頂いた。

【実施日】 令和3年4月6日（火） 9：15～11：45

【参加者】 地域枠等特別選抜枠新入生13名、教員4名

松江市立病院では安部睦美先生に、松江生協病院では高濱顕弘病院長にそれぞれ病院のご紹介と質問を受けて頂き、新入生に激励を頂いた。学生達にとっては、医学生になって初めて聞く医療現場の話であり、緊張した様子が見受けられたが、「未来のお医者さんたちに」と贈られたガンバレエールに顔がほころび、これからの学習のモチベーションに繋がるものが感じられた。松江赤十字病院では、屋上のヘリポートにご案内頂き、病院の概要をお話頂いた。松江市内はもとより大山から三瓶山まで大パノラマが広がり、学生達にとっては心象風景として心に強く残ったと思われる。



松江市立病院



松江生協病院



松江赤十字病院

4 学生と行政・医療機関との交流

地域枠推薦入学等の学生の出身地域へのモチベーションを持続させるために、例年、県内の行政・医療機関が企画・立案した交流会が実施され、当講座教員も参加している。

本年度は3市の交流会が企画されたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、1件のみ実施した。

■雲南市交流会

【実施日】 令和3年10月22日（金）

【場 所】 出雲市内

【参加者】 19名（学生9名）



5 学生間、学生と教員等との交流

■地域枠等入学生全学年会

【実施日】 令和3年10月1日（金）18：00～20：00

【場 所】 みらい棟2階共通カンファレンスⅠ（Web併用）

【参加者】 18名（学生10名）

6年生の実行委員長の挨拶に始まり、続いて佐野教授から「これからの能力：救援力・発信力・共感力」「医学・医療に加えて第2の得意技を持つ」等メッセージが贈られた。

しまね地域医療支援センターの児玉事務局長には、キャリア支援について島根県の医師数の現状やキャリア形成プログラム等についてお話し頂いた。

実行委員長の進行の下、自己紹介から始まり本会の催し物として6年生から「島根県クイズ」が出題された。最初から答えのスライドが出るというようなオンラインならではのハプニングがあり、笑い・突っ込み・拍手が起こり一気に参加者の距離感が縮まり、楽しい交流の場となった。

最後の挨拶は前教授の谷口先生より「同期・同窓生・地域枠等“つながり”を大事に財産にして、夢を持って学生時代を送ってほしい」とメッセージが贈られた。

なお、「学年会」についてはコロナ禍のため中止とした。



6 図書・DVDの貸出事業

「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生学、疫学、統計学、臨床関係等に関する約1214冊の蔵書、雑誌、DVDがあり、随時学生に貸し出しを行っている。

令和3年度 貸し出し総数 書籍：7冊 DVD：17巻

〔新刊書籍・DVD〕



4 地域医療支援等

地域の医療機関や行政等の相談を受け、個別にアドバイスをし、また地域医療を守る住民活動の取り組み支援を行っている。

1 地域住民への支援

■今市町自治協会創立50周年記念式典・記念講演

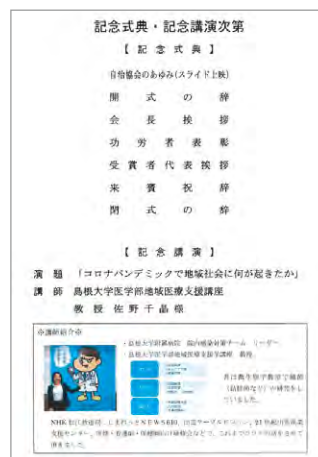
【テーマ】 コロナパンデミックで地域社会に何が起きたか

【実施日】 令和3年11月21日（日）15：30～16：30

【場所】 ホテル武志山荘

【講師】 島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

【参加者】 50名



2 行政への支援

■「第38回地域保健を語る会」における基調講演

【テーマ】 新型コロナウイルス感染症とどう向き合うか

【実施日】 令和3年7月10日（土）

10：30～11：45

【場所】 出雲市民会館

【講師】 島根大学医学部地域医療支援学講座

教授 佐野 千晶

【参加者】 55名



■健康ますだ市21フェスティバル 講演会

【テーマ】 地域住民の健康をコロナから守ろう！

【実施日】 令和3年10月31日（日）10：00～11：00

【場所】 ふれあいホールみと

【講師】 島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

【参加者】 50名



3 第122回 日本医史学会公開講座

【テーマ】 人類に適応を成し遂げた病原微生物－結核と新型コロナウイルス－
 【場所】 Web開催
 【講師】 島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶
 【配信期間】 令和3年9月18日（土）～23日（祝・木）

対策の要 正確な情報
 新型コロナウイルス感染症の発生は、大規模な流行を起し、世界に大きな影響を与えている。その対策には、正確な情報が不可欠である。本大会では、最新の研究や臨床現場からの情報を提供し、対策のあり方を考える機会を設ける。また、音楽を通じた癒しや励みも提供される。ぜひご参加ください。

4 第22回 島根感染対策セミナー

【テーマ】 感染制御部に役立つコロナ検査とワクチンの知見
 【実施日】 令和3年10月24日（土）
 【場所】 Web開催
 【講師】 島根大学医学部地域医療支援学講座
 教授 佐野 千晶

島根大学医学部地域医療支援学講座
 メンバー紹介
 講座紹介
 1年間のあゆみ
 業績
 写真で見る1年間

5 第12回中四国地域医療フォーラム

【実施日】 令和4年2月5日（土）10：00～16：20

【場 所】 Web開催

【主 催】 島根大学医学部 地域医療支援学講座
島根県健康福祉部 医療政策課
一般社団法人しまね地域医療支援センター

【参加者】 136名

【内 容】

第1部「地域医療関係講座の現状と課題」

第2部「地域枠制度のこれまでの検証と今後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について」

6 島根県健康福祉部医師確保対策室・しまね地域医療支援センター・地域医療支援学講座合同勉強会

島根県の地域医療を担う医師の育成・定着を図るため、島根県健康福祉部医師確保対策室、しまね地域医療支援センターおよび地域医療支援学講座の3者で月に1回合同勉強会を行った。

【場 所】 みらい棟1階 みらいラウンジ

【内 容】 年間スケジュール、島根県内における専門研修に関するアンケート、入学制度学生面談、臨床研修医マッチング登録及び結果、中四国地域医療フォーラム、キャリア形成プログラム運用指針、島根県医学生地域医療奨学金 等

回数	実施日	回数	実施日
第1回	4月20日(火)	第7回	10月12日(火)
第2回	5月18日(火)	第8回	11月16日(火)
第3回	6月22日(火)	第9回	12月21日(火)
第4回	7月20日(火)	第10回	1月18日(火)
第5回	8月24日(火)	第11回	2月15日(火)
第6回	9月21日(火)	第12回	3月29日(火)

5 ホームページ・広報誌等による情報発信

1 ホームページ

今年度はセミナー等のお知らせを50回更新した。また地域医療実習募集PR・実習参加学生の感想の掲載や地域医療交流サロンに関するお知らせ等の更新も行っている。今後も継続して適宜的確な情報発信に努めたい。

※令和4年3月16日現在



2 Facebook

令和3年度は当講座 Facebook を90回更新し、昨年度740名であったフォロワーが941名に増加した。

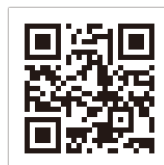
※令和4年3月16日現在



3 Instagram

令和3年度は64回更新し、フォロワー数は昨年度108名から125名に増加した。ストーリーズ機能も活用するなど、学生向けの情報発信を積極的に行っていききたい。

※令和4年3月16日現在



4 公式LINE

学生への公式LINE登録を呼びかけ、昨年度より登録者数が92名から213名に増加した。メールよりも開封率&即効性が高いことから、学生への迅速な情報提供が可能となった。今後も、チャット機能の活用による学生とのコミュニケーションの円滑化など、有効な活用方法を検討・実施していききたい。

※令和4年3月16日現在



5 地域医療支援学レター（年4回発行）

今年度もニュースレター「We love ちいき」を年4回発行し、紙ベースでのPR活動も行っている。島根大学地域枠等入学生ならびに奨学金受給の全学生・県内保健所・医療機関・住民活動の会・全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。



6 地域医療支援学レター掲載「リレートーク」

地域医療支援学レター「We Love ちいき」に、リレートークというコーナーを設けて、島根県内の医療従事者に、これから医師となる学生に向けて、地域医療の魅力や課題・病院のPRを含めてメッセージを頂いている。第35回から第38回を掲載する。

支援学レター Vol.35 リレートーク

第35回 リレートーク

TITLE | パンデミックは地域医療を変える



独立行政法人 国立病院機構
浜田医療センター
病院長
飯田 博 先生

新型コロナウイルス拡大に伴い人々の生活は大きく変化しました。会社での仕事にテレワークが導入され、会議や学校の授業までもオンラインに変わりました。ポストコロナの社会ではICT化が加速し、医療従事者の働き方も大きく変わっていくと思います。

人口減少社会において医師偏在の問題解消のため、病院の統廃合や医療制度の変更が行われます。医師の数が少なくなる一方で、高齢化社会が進むことで、医師の求められる役割は専門的診療のみならず、幅広い疾患への対応や福祉・介護との連携、地域社会での健康教育から緩和ケアや看取りまで多様化し、地域での医師の活躍の場は多岐に渡るようになります。

現在どの地域でも高齢者の福祉・介護が問題となっていますが、これからは高齢者の健康寿命を延ばすための方策が必要となります。地域医療では顔の見える連携を構築し予防医学を前面に出して、その地域での生活を支えるインフラづくりが重要と考

えられます。そのためにはオンライン診療サービスなどのICTを駆使して、画面を通して患者さんの健康状態を判断し、その変化を察知できる観察力やそうした環境への適応力が大切だと思います。

皆さんのこれからの活躍を期待しています。



独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター
〒697-8511 島根県浜田市浅井町777番地12
TEL:0855-25-0505(代)

支援学レター Vol.36 リレートーク

第36回 リレートーク

TITLE | 20年後のあなたへ



安来市立病院
病院長
水澤 清昭 先生

これまで団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に着目した地域包括ケアシステムの構築などの制度改革が推進されてきました。しかし、今般では人口構成が激変し、特に生産人口の減少が加速し、高齢者人口が4000万人とピークに達し、総人口の3分の1を越えると推計されている2040年に着目した制度改革へとシフトしてきています。

高齢者の増加は、医療や介護を総合的に提供する施設の需要増加をおこす一方で、高度で専門的な治療技術を提供する施設の集約化がさらに促進されると考えられます。これからの20年で、病院のあり方が大きく変わってきます。病院が変われば当然、医師に求められる働き方やキャリア形成の考え方も変わってきます。高度な専門技術を持った医師の少数精鋭化が進む一方で、複数の疾患や健康上の問題を抱える患者を総合的に診ることのできる総合診

療医のニーズは高まるばかりです。総合診療医は地域医療遂行のキープレイヤーです。医療技術習得には研修し経験を積む必要がありますが、院内の多職種や地域の幅広い職種、そして地域住民とつながる技術、姿勢を学ぶことが最も大切だと考えます。20年後のあなたに期待しています。



安来市立病院
〒692-0404 島根県安来市広瀬町広瀬1931
TEL:0854-32-2121 FAX:0854-32-2125

支援学レター Vol.37 リレートーク

第37回 リレートーク

TITLE | 障害児者医療も地域医療です



西部島根医療福祉センター
院長
中寺 尚志 先生

西部島根医療福祉センターは、施設としての福祉機能と病院としての医療機能を十分に活かし、障害をお持ちの子どもからお年寄りまであらゆるニーズに沿ったサービスの提供を行っています。

特徴ある医療は、発達障害を中心とした小児の障害児医療、整形外科の脳原性障害児者に対する機能再建術、痙縮治療、リウマチ科、障害児者の為の歯科診療。全ての障害に対するリハビリテーションであります。この施設は他の一線病院とは違い、ゆとりとした環境の中で、しっかりと患者さんと向き合うことが出来、文献と症例をあわせ、考える力を養えると思います。

また、地域で安心して暮らせるように生活介護、日中一時支援、短期入所、共同生活援助、相談支援事業などを行っており、福祉施設としての働きと上記医療がコラボすることによって、障害児者が地

域で生きることが初めて叶えられる大切な地域医療であると思っています。この施設に興味のある研修医、医師の皆様、私たちと一緒に働いてみませんか。



西部島根医療福祉センター
〒695-0001 島根県江津市渡津町1926
TEL:0855-52-2442(代)

支援学レター Vol.38 リレートーク

第38回 リレートーク

TITLE | 指導医も巡回診療を



松江赤十字病院
院長
大居 慎治 先生

松江赤十字病院の救護班は、戦後の医療資源の乏しかった1946年から約5年間、県内隈なく延150ヶ町村を巡回診療しました。その精神は脈々と受け継がれ、今でも地域医療拠点病院として、巡回診療、医師・看護師派遣をしています。院外活動を支援する部門は欧米型の医療社会事業部となり、現在は社会福祉士(MSW)が活躍しています。

1950年代には国の施策により僻地医療支援病院からの巡回診療、医師派遣、遠隔治療などが始まりました。1970年代には自治医科大学の設立、一県一医大構想が実現しました。しかし今でも医療の偏在は残っています。一方で若い医師にとっては都市部での生活や(総合医を含めた)専門医資格は一大事関心事です。解決には都市部や大学・教育病院と地域の病院との行き来が重要と思っています。拠点病院での専門診療科の経験も重要ですが、地域医療においても専門医の指導が必要です。

指導医も拠点病院から巡回診療のように地域へ派遣する仕組みができたらい。専門医機構のプログラム認定も都市部と過疎地の行き来、指導医の行き来をもっと柔軟にしてほしい。そして県内で優れた医師が育ち、優れた指導医が増えることを願っています。



日本赤十字社 松江赤十字病院
〒690-8506 島根県松江市母衣町200
TEL:0852-24-2111

6 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み

1 各医療機関間のネットワークづくり

(1) 総合診療専門医育成ネットワーク世話人会及び意見交換会等の開催

- ・世話人会議 令和3年8月1日(日)、令和4年3月5日(土)
- ・世話人会議 (メール会議) 10回
 - 7月 「専攻医の集い」および「総合診療ワークショップ」の統合について
 - 8月～12月 総合診療専門医プログラム説明会のあり方について
 - 1月～3月 次年度の取り組みについて

2 総合診療専門医育成のためのプログラム作成・指導体制の支援

令和3年度現在23名の専攻医が研修中である。

(1) 家庭医療専門医プログラム (Ver 2.0) ……10プログラム

- ・島根大学病院総合医・家庭医養成プログラム (ver. 2.0)
- ・島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム (ver. 2.0)
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター後期研修プログラム (ver. 2.0)
- ・雲南市立病院総合医・家庭医教育プログラム (ver. 2.0)
- ・大田市立病院総合診療医・家庭医育成プログラム (ver. 2.0)
- ・家庭医療・地域包括ケア 仁寿・川本あいあいプログラム (ver. 2.0)
- ・浜田市地域包括ケア家庭医療専門医コース (ver. 2.0)
- ・津和野共存病院総合診療医・家庭医育成プログラム (ver. 2.0)
- ・県境を含む中山間地域で育む総合医研修プログラム (ver. 2.0)
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム (ver. 2.0)

(2) 総合診療専門医研修プログラム……10プログラム

- ・松江生協病院総合診療専門医研修プログラム
- ・島根大学病院総合診療専門医コース研修プログラム
- ・島根県立中央病院総合診療専門医研修プログラム
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター総合診療専門医研修プログラム
- ・雲南市立病院総合診療専門医研修プログラム
- ・総合診療専門医研修 仁寿・川本あいあいプログラム
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム
- ・浜田市地域包括ケア総合診療専門医コース
- ・津和野共存病院総合診療専門医研修プログラム
- ・出雲徳洲会病院総診プログラム

3 総合診療医ブラッシュアップセミナー

【実施日】 令和3年8月1日（日）10：00～12：10

【場 所】 Web開催

【講 師】 島根大学医学部附属病院 病院長 椎名 浩昭 先生
しまね総合診療センター センター長 白石 吉彦 先生

【参加者】 45名

【概 要】 第1部は4月に病院長に就任された椎名先生にお話し頂いた。先生は「病院内・医学部内・地域内の真の連携強化は、その壁をとり機能強化を図ることが大事である」と述べられた。その為には「資本・智識・人材」の3本柱が必要で、これが1つでも欠けると安定して地域に医療が提供できないとされ「戦略的な病院運営の構築」「基礎医学部門との連携」「県立中央病院との連携強化、出雲医療圏での臨床研修医の確保」を挙げられた。またCovid-19対策は、「災害と認識し入院調整や重症患者受入れのシステムを構築し低い死亡率を実現している」と述べられた。

第2部は白石先生にしまね総合診療センターをご紹介頂いた。また、先生の医師としての歩みやプライベートでの楽しみ方を熱くお話し頂いた。島根の総合診療に新しい風が吹き、今後の更なる発展を感じた。

4 総合診療医等の研修

(1) 総合診療スキルアップセミナー

NPO日本医療教育プログラム推進機構が開催する「総合診療スキルアップセミナー」への参加
今年度実績 なし

(2) しまね総合診療の集い

従来実施していた、「総合診療専攻医の集い」および「総合診療ワークショップ」の活動を「しまね総合診療の集い」として統合した。

■第1回（2021年度島根県総合診療専攻医合同オリエンテーション）

【実施日】 令和3年5月29日（土）14：00～18：10

【場 所】 ビッグハート出雲・茶のスタジオ（Web併用）

【内 容】 ①記念講演：「これから総合診療をやる君たちへ」

しまね総合診療センター センター長 白石 吉彦 先生

②先輩研修医に学べ！研修サバイバル術

島根県立中央病院 坂口 公太 先生

③家庭医療集中授業：患者中心の医療技法

出雲市民病院 高橋 賢史 先生

【参加者】 46名

【概要】 記念講演として、白石吉彦先生に「これから総合診療を始める君たちへ」と題してお話し頂き、多くのメッセージが新専攻医に贈られた。

次に先輩専攻医として島根県立中央病院の坂口公太先生が、ダークサイドに落ちないためには視座を高めグローバルな視点を持つ事が必要とアドバイスされた。

家庭医療集中講義では、高橋賢史先生より「患者中心の医療技法」についてレクチャーを受け、指導医専攻医を交えてグループ単位で活発な討論・発表が行われた。

閉会式には、しまね総合診療センターのチーフレジデント4名とチーフコンサルタント1名の任命式が行われ、白石センター長より任命書が手渡された。コロナ禍で2年ぶりの開催となったが、新専攻医の先生方がこの会を切っ掛けに、良いスタートが切れることを願った。

■第2回（家庭医療学集中授業② 家族志向型ケア）

【実施日】 令和3年10月3日（日）14：30～17：30

【場所】 島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシーホール（Web併用）

【内容】 ①高度総合診療力修得コース for 島大の概要について

島根県立中央病院 救命救急科 医長 樋口 大 先生

②患者中心の医療と家族志向型ケアについて

島根大学医学部総合医療学講座／大田総合医育成センター 講師 木島 庸貴 先生

・セッション1 頭痛 クモ膜下出血が心配？

・セッション2 家族について考える

・セッション3 家族カンファレンス ロールプレイ・まとめ

【参加者】 52名

【概要】

最初に樋口先生から、来春開始を予定している「高度総合診療力修得コース for 島大」について概要の説明が行われた。

続いて木島先生より、総合診療医に重要な3つの理論から、第1回に取り上げた「患者中心の医療技法」の復習が行なわれ、今回のテーマ「家族思考型ケア」の講義に入られた。

症例提示やロールプレイをもとに「家族」についてディスカッションを行い、患者の症状出現には家族の問題が反映されていることが多々あり、個々人の健康に影響を及ぼす要素であることが理解できた。

参加学生は総合診療の基本となる考え方を学び、専攻医は家族志向型ケアを理解され、今後のポートフォリオの作成に取り組まれる事と考える。

■第3回（阿部顕治先生記念講演会）

【テーマ】 伝えたいこと～四半世紀 地域医療をみつめて～

【実施日】 令和4年3月5日（土）13:30～15:30

【場 所】 Web開催

【参加者】 108名

【講 師】 浜田市国保診療所連合体 弥栄診療所 所長 阿部 顕治 先生

【概 要】

弥栄診療所の所長である阿部 顕治先生が令和3年度でご退職を迎えられる。しまね総合診療の集いでは、長きに亘り総合診療医として島根の地域医療にご尽力頂いた阿部先生の記念講演をWebで開催した。

講演は四半世紀地域医療をみつめて「Ⅰ 小さな村の診療所で学んだこと」「Ⅱ 村から市へ、診療所連合体へ」「Ⅲ 地域医療から地域包括ケアへ」「Ⅳ 診療所連合体のこれから」についてお話し頂いた。

広報開始より多くの問い合わせがあり大きな反響があった。先生が島根医科大学時代に農山村地域医療研究会を立ち上げられた時のお仲間から現役高校生まで、多くの方にご参加を頂いた。講演後には沢山の質問や賛辞の言葉が贈られた。

講座では今後も地域医療学の講師など引続きお世話になるが、教育・人材育成に多大なるお力添えを頂いた先生に感謝とお礼を申し上げたい。

5 医学生・研修医等を対象とした地域医療研修等の受入体制の整備

(1) 総合診療ワークショップ

しまね総合診療の集いに統合

(2) 学生への学会等参加支援

実績 なし

6 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発

(1) しまね地域医療支援センターとの連携

- ・第1回しまね専門研修プログラム Web 説明会 令和3年7月19日（月）
- ・第2回しまね専門研修プログラム Web 説明会 令和3年10月25日（月）

(2) 学会等での普及啓発

■第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会学生セッション参加

【実施日】 令和3年5月22日（土）

【場 所】 Web開催

【参加者】 2名

(3) 総合診療専門医プログラム説明会

【テーマ】 総合診療という専門性を再考する～楽しく医師として働くTips～

【実施日】 令和3年8月1日（日）13：30～17：00

【場 所】 Web開催

【講 師】 雲南市立病院 地域ケア科 部長 太田 龍一 先生

【参加者】 29名

先生は「地域で医療職を育てる」というミッションを持ち、総合診療医として臨床・教育・研究に当たられ、本会では医学部生との研究もご紹介頂いた。

先生が考えられる総合診療は「臨床・教育・研究をバランスよく進めながら展開していくこと。更に、常に努力を重ね楽しく医療を行える一生使える専門性」と述べられた。最後に、先生はメンターから贈られた「指導医は教育環境の構築に心血を注ぐべきです」という言葉を常に意識し総合診療教育を行っているという講演を締めくくられた。

続いて、県内9病院に総合診療専門研修プログラムについて説明を頂いた。これを機に一人でも多くの医学生・初期研修医が総合診療専門医の道を志してもらえたら幸いである。また、初期研修医等が各病院のプログラムを気軽に視聴できる体制の構築が必要であると考えている。を参加者に説明して頂いた。今回は初めてのWeb開催となったが、このプログラム説明会を機に、一人でも多くの医学生および初期研修医に興味を持って頂き、総合診療専門医の道を志して欲しい。

7 大学と連携した取り組み

(1) 大学院コース等の支援

博士課程：地域医療・地域包括ケア指導者育成コース

修士課程：地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）

その他：①島根大学病院総合診療専門医コース

②地域包括ケア人材養成コース（インテンシブ）

(2) 卒後臨床研修センター主催 早朝セミナー（毎週水曜日 7：30～8：15）

7 ワークライフバランス

1 教育

(1) 男女共同参画講義（キャリア教育）

臨床実習前の医学科4年生対象にした男女共同参画講義（キャリア教育）を島根県医師会と共に、主催している。

【実施日】 令和3年12月16日（木）9：40～16：10

【場 所】 島根大学医学部 臨床大講堂（Web併用）

【対 象】 島根大学医学部4年生

【主 催】 島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】 日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】 ① WLB講演ならびにワーク

広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生（Web）

② キャリアモデルの紹介

島根大学医学部 消化器内科 助教 沖本 英子 先生

島根大学医学部 器官病理学 准教授 荒木 亜寿香 先生

島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター 副センター長 安部 哲史 先生

③ 島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当） 河野 美江 先生（Web）

④ 島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会講演会】

特別講演1.「新しい医師の生き方5.0」

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーションスクール 教授 吉田 穂波 先生（Web）

特別講演2.「世界のコロナマネジメント」

WHO感染症危機管理シニアアドバイザー 進藤 奈邦子 先生（Web）



(2) ワークライフバランス講義

研究室配属の講義として「医師として働くこと」と題して堀田が担当した。統計と実体験をもとに話をを行い、復職と支援について話をを行った。

(3) 医師生活密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師に同行して実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習である。

(4) セミナーの開催

■ワークライフバランスセミナー

- 【テーマ】 男性育休が働き方も組織も変える
- 【実施日】 令和3年9月16日（月）18：00～19：30
- 【場所】 島根大学医学部みらい棟4階 ギャラクシー（Web併用）
- 【対象】 学生、医療関係者
- 【主催】 島根大学医学部地域医療支援学講座
- 【共催】 島根大学ダイバーシティ推進室
医学部附属病院ワークライフバランス支援室
- 【学内講師】 島根大学医学部眼科学講座 助教 杉原一暢 先生
島根大学医学部眼科学講座 医科医員 河野通大 先生
- 【特別講師】 株式会社 ファミリーエ代表取締役
NPO法人ファザーリングジャパン理事 徳倉 康之 先生
- 【参加者】 21名



【概要】 杉原先生は現在育休中で、赤ちゃんを抱かれてお話された。育休を取ってみて「得手不得手はあるけど、男だって育児は問題なく可能、いつか、第2子生まれたらもう一度育休取ります」と早くも宣言された。

河野先生は2人目出生時に育休を取得され、育児に対する当事者意識が生まれ、また長男との絆が深まったことをお話しされた。

特別講演として徳倉先生にお話し頂いた。働く人すべてが働きやすく、制度を変えるのではなく組織風土を変える心掛けが大切だと話された。また、少しの工夫で人が辞めない組織を作ることができることもご教授いただいた。

これからの時代をとらえた、まさに組織風土から社会を変えていけることを勇気づけられるお話であった。

2 学生との交流

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりを持つために開催した。
女性医師らと学生とで議論が深まった。

■第1回えんネット交流会

【実施日】 令和3年7月12日（月） 17：30～19：00

【場 所】 島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンスⅠ（Web併用）

【参加者】 敬称略 順不同 荒木亜寿香（病理部） 木村かおり（法医学講座） 真子絢子（小児外科） 中尾美香（呼吸器・化学療法内科、先進医療管理センター） 守田美和（内分泌内科） 鞆嶋有紀（小児科） 猪木迫綾香（整形外科） 石川雅子（産婦人科） 持地美帆子（眼科） 堀田優希江（地域医療支援学） 佐野千晶（地域医療支援学）、学生3名

【概 要】 今年度1回目の交流会を対面とオンラインのハイブリッドで行った。自己紹介を行った後に各々の現在の悩みなどを共有した。学生からは勉強と実習などの両立やロールモデルについて相談があり、先輩医師からは趣味の時間を持ち気分転換しながらやることの大切さやローモデルの存在が成長を促すこと等の助言があった。

参加医師の世代も幅広く、産前産後休暇や育児休暇の取得について、また未就学児から思春期の子育ての悩みまで相談があり、子供の成長に併せて悩みも変わっていくことを共有した。また、男性の育児休暇の取り方や働き方について情報交換を行った。

参加された女性医師や学生からは、色々な世代の話が聞けて楽しかったと感想を頂いた。

■第2回えんネット交流会

【実施日】 令和3年12月13日（月） 17：30～19：00

【場 所】 島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンスⅠ

【参加者】 敬称略 順不同 小川典子（解剖発生学） 荒木 亜寿香（病理部） 中尾美香（呼吸器・化学療法内科、先進医療管理センター） 鞆嶋有紀（小児科） 持地美帆子（眼科） 筒井愛佳（眼科） 宇賀田典美（血液・腫瘍内科） 堀田優希江（地域医療支援学） 佐野千晶（地域医療支援学）、学生3名、学生4名

【概 要】 今年度第2回の交流会を久しぶりの対面で開催した。1～4年生、男女2名ずつの学生参加もあった。これまでの経験などを含めた自己紹介の後、男子学生からは「女性医師を含む医師たちは結婚や出産等のライフイベントにどのような生活スタイルで対応している

のか」という質問があった。個々人の様々な働き方の回答に感嘆の声や笑いが聞かれた。今や、男子学生でも学生時代からライフイベントとキャリアを考えるのかと、驚きと一方で主催者側としては喜びも感じた。

学生からは「このような機会に沢山のお話を聞くことができてよかった、また参加したい」との嬉しい感想が聞けた。コロナ禍ではあるが、状況をみながら対面での開催を継続していきたい。



3 就労支援

(1) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口（えんネット）を設置し、出産・育児後の女性医師等が安心して職場復帰や、現在の働き方に悩みを抱える医師のために個々に応じた復職への相談も受け付けている。復職支援プログラム作成や復職に向けたシミュレーション教育等を支援して、専門に応じた対応が必要な場合は、支援担当員として協力いただく専門科の先生に相談を受けることも可能としている。

相談件数 25件

・相談窓口事業の相談内容

- ① 県内に赴任した際の研修機会の確保
- ② 離職後の段階的なスキルアップについて
- ③ 異動先の研修施設 院内保育所等
福利厚生 の状況
- ④ 身体的不調、精神的不調
- ⑤ ライフイベントに関連した働き方
- ⑥ ライフイベントと奨学金返還免除期間

(2) 復職サポート

職場紹介、雇用についてサポートを行っている。勤務が開始された後は健康面、精神面での定期的なフォローを行っている。

職場紹介実績 1件



4 研究

■学生のキャリア選択についての研究

研究代表者：佐野 千晶

医学生のキャリア認識が、どういった生物学的因子、社会的因子、経済的因子、環境因子、教育機会因子と関連しているのかについてキャリア・アンカー理論を応用し、研究している。また、他学部との共同研究を開始し、医学生のキャリア選択について検討している。

■学会発表

堀田 優希江、布野 慶人、宅野 真由美、吉川 啓介、佐野 千晶：医学生の就業観とワークライフバランスについての認識アンケート調査。第53回日本医学教育学会大会、オンデマンド口頭発表 オンデマンド 2021年7月23日～8月31日

5 託児付セミナー支援

■島根県糖尿病療養指導士認定研修会（松江赤十字病院）

令和3年5月15日（土）12：30～19：00

令和3年5月16日（日）8：00～13：00

■島根県糖尿病療養指導士認定試験（松江赤十字病院）

令和3年7月4日（日）9：00～14：00

■島根地域医療の会（ニューウエルシティいずも）

令和3年7月22日（木・祝）15：00～18：30

■中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー（浜田石央文化ホール）

令和3年11月7日（日）

■島根県糖尿病療養指導士認定研修会（松江赤十字病院）

令和3年12月4日（土） 5日（日）



6 広報

(1) えんネットマガジンの発行

特集：島根県央で地域医療を支える医師たち

松江生協病院 医師4名にインタビュー取材を行った。

子育て中の医師からキャリア形成についてのお話を聞くことができた。



(2) えんネットホームページ

キャリア支援・両立支援や学生支援の情報、学生教育について適宜更新している。

<https://www.en-net.jp>

(3) えんネットグッズの作成

えんネットの活動周知のため、本年度はポスター、フライヤー、他グッズを作成し、関係機関へ配布した。

〈ポスター〉



〈フライヤー〉



〈カレンダー〉



8 第12回中四国地域医療フォーラム

【実施日】 令和4年2月5日（土）10：00～16：30

【場 所】 Web開催

【主 催】 島根大学医学部 地域医療支援学講座、島根県健康福祉部 医療政策課
一般社団法人しまね地域医療支援センター

【参加者】 中四国各県の地域医療に関わる大学関係者・県行政担当者・地域医療支援センター職員・公立病院指導医・地域卒業医師・地域卒学生 計136名

第1部

第1部はプレ集会で、「地域医療関係講座の現状と課題」というテーマで8大学からの報告が行われた。特に、現在のコロナ禍における地域医療教育の取り組みについては、様々なヒントを得ることができた。また、関連講座の連携の必要性について改めて再認識した。

座長：佐野 千晶（島根大学医学部地域医療支援学講座 教授）

- ① 佐藤 勝（岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 教授）
- ② 浜田 紀宏（鳥取大学医学部地域医療学講座 准教授）
- ③ 松本 正俊（広島大学医学部地域医療システム学 教授）
- ④ 前田 敏彦（山口大学医学部附属病院医療人育成センター 助教）
- ⑤ 山口 治隆（徳島大学大学院総合診療医学分野 准教授）
- ⑥ 阿波谷敏英（高知大学医学部家庭医療学講座 教授）
- ⑦ 川本 龍一（愛媛大学医学部地域医療学講座 教授）
- ⑧ 佐野 千晶（島根大学医学部地域医療支援学講座 教授）

第2部

第2部は本集会で「地域枠制度のこれまでの検証と今後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について」をテーマとして、各県からの報告が行われた。中四国9県の大学の地域医療関係講座、各県の担当者および地域医療支援センターのスタッフなどが集まり、地域枠制度などについての情報交換と議論がなされた。

座長：木村 清志（しまね地域医療支援センター 副理事長）

- ① 山口県 宮崎 睦子（山口大学医学部附属病院 医療人材育成センター 准教授）
- ② 高知県 脇口 宏（高知地域医療支援センター長）
- ③ 広島県 小西 雄貴（広島県健康福祉局医療介護人材課 主査）
- ④ 愛媛県 藤井 裕士（愛媛県保健福祉部社会福祉医療局医療対策課 主事）
- ⑤ 岡山県 小川 弘子（岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 教授）
- ⑥ 香川県 奥澤 修（香川県健康福祉部医務国保課 課長補佐）
- ⑦ 島根県 佐野 千晶（島根大学医学部地域医療支援学講座 教授）
- ⑧ 徳島県 鹿草 宏（徳島県地域医療支援センター 特任助教）
- ⑨ 鳥取県 福本 宗嗣（鳥取県地域医療支援センター 特命教授）

第2部の後半は、地域枠卒業医師である山口祐貴先生に「益田市の医療に携わって」というテーマでご発表頂いた。地元の病院で勤務しながら、さらに学位取得や専門医取得を目指す志は、聴講していた学生達にもしっかりと届いたのではないかと考える。支援者側としても、卒前の地域医療実習や地域との交流が重要であることを再認識させられた。続いて、白石吉彦先生にしまね総合診療センターの目的や取組等をご紹介いただいた。特に、集合教育と併せてITを使用したバーチャルオフィスにより、どこに居ても教育や情報の共有が可能となるシステムが構築されており、一層強固な総合医ネットワークが構築され、多面的・多角的からの教育提供が可能になったと感じた。今年度は開催県としての役割があり、各関係機関と連携しながら準備を進め、オンラインでも議論を活性化するための工夫を取り入れて無事終了することができた。

各県からの事例紹介・報告

発表者 島根大学地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶

「地域枠制度のこれまでの検証と
今後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について」

島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

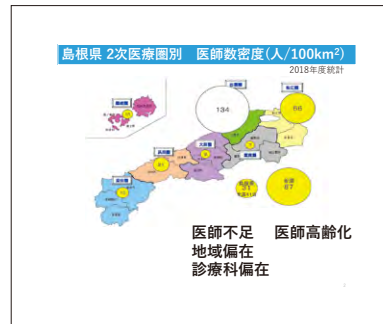


令和 4年 2月 5日 第12回中四国地域医療フォーラム
本会 (島根 オンライン)

地域枠制度のこれまでの検証と
後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について

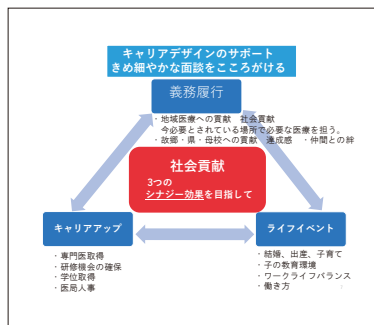
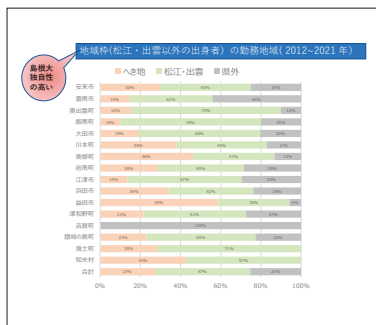
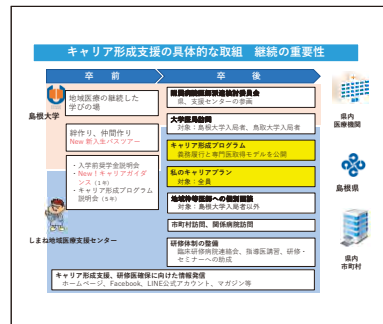
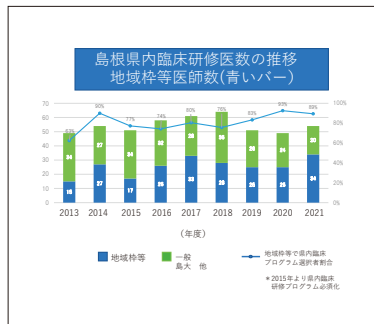
2021年4月
新入生
開校式スワゴ
副知事表彰状

島根大学医学部地域医療支援学講座
○佐野千晶、布野慶人、堀田優希江、宅野真由美
(一般社団法人)しまね地域医療支援センター
事務局 児玉信広、古瀬和久、井原正貴、松本一也、御興大河



島根県内専門医登録状況 (新規/年使)

診療科	2018	2019	2020	2021	2022
内科	12	19	10	5	7
総合診療科	3	3	2	1	2
小児科	2	1	1	1	1
整形外科	3	4	1	1	1
外科	3	1	4	2	3
産科	3	3	3	3	3
精神科	1	2	6	8	2
泌尿器科	2	1	1	1	1
放射線科	1	1	1	1	1
皮膚科	1	2	1	1	2
消化器科	2	1		2	1
眼科	1		4	1	1
救急	1	1	1	1	1
耳鼻咽喉科	3	13	44	19	45
合計	37	53	84	49	70



地域枠等学生数・医師数 2021年12月現在

地域枠	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
地域枠学生	6	5	11	10	11	9	52
地域枠学生	-	1	2	0	0	0	3
医師数	9	7	4	5	5	7	37
臨床研修医	3	9	4	7	8	9	40
研修医の合計	0	0	3	1	5	5	14
合計	18	22	24	23	29	30	146

(人)

総合診療医のススメ

SHIMANE MAGAZINE

総合診療専攻医の真の
年4回 各種 研修機会

総合診療専門医
プログラム
オンライン
コンテツ公開

組織連携
身分保護

Workplace educationのススメ

コロナの波のすのけ
夏季・夏季地域医療実習、研究室配属フィールド学習の実施

保母所での実習
(コロナ禍で無理になりました。)

オンライン実習委員会

島根県医師会
島根県医師会
島根県医師会

地域医療をコアとした研究のススメ

医学生が地域医療をコアとした社会貢献を支援

地域医師しながら学位取得を目指す：若手医師キャリア支援

2021年度 島根大学医学部大学院医学研究科 地域医療系コース 2名 入学
島根大学 (3名2名地域枠) 東京大学 兵庫医科大学

ご情報ありがとうございます。

地域卒卒業医師からの近況報告

発表者 益田赤十字病院 消化器内科 山口 祐貴

テーマ 「益田市の医療に携わって」



地元 益田市の医療に携わって

益田赤十字病院 消化器内科
山口 祐貴



医療圏域は山口県萩東部から浜田まで
周辺のハイボリュームセンターまで2-3時間の移動時間が必要

学生の頃のイメージ

地域医療 = 僻地医療

地域枠として地域で働く
→ 僻地で働く

学生の頃のイメージ

- ✓ 1人で様々な疾患を診る必要がある
- ✓ 求められるのは総合診療医
- ✓ 医師になってすぐ帰っても役に立たない

学生時の私自身

地元の現状を知らない

目指す医師像が定まらない

⋮

「1人前になったら地元へ帰ろう」

キタラフ形成支援、研修医研修に向けた情報発信
ホームページ、Facebook、LINE公式アカウント、マガジン等

地元のことを考えるきっかけ

大学5年生

地元市長との意見交換会
地元の病院で働く医師と話す
地域医療教育シンポジウムへの参加

大学6年生

地元の病院、開業医での地域医療実習

初期臨床研修1年目は大学で

- ✓ 地元で初期研修を行った先輩が少ない
- ✓ 社会人1年目で不安
- ✓ 内科一般の基礎をまずは大学で学ぶ

初期臨床研修2年目は地元へ

- ✓ どんな患者さんが多いか
- ✓ 何を学ぶことができるか
- ✓ 自分に求められること

益田市で働くにあたって

- ・ 内科全般ができるように
- ・ 総合診療科の研修プログラムはない
- ・ 専門性も自分の中の軸としてほしい

消化器内科を中心に

3年目以降も益田赤十字病院で勤務

消化器内科医として



消化器内科医として

超音波内視鏡はあるけど活用できていない
ハンズオンセミナーや教科書で勉強

卒後4年目
地域医療教育学講座大学院入学

胆膵
疾患

卒後6年目に4か月間
大学院の研究と消化器内科での研修のため
島根大学医学部附属病院へ

消化器内科医として

益田圏域で可能な限り検査・治療を

- ・ 超音波内視鏡検査導入
- ・ ダブルバルーン内視鏡下逆行性胆管膵管造影検査導入

益田圏域内での医療充足

- ・ 検査医不在の近隣病院での内視鏡検査

今後の目標

- ✓ 専門性を持ちつつ総合的に
- ✓ 資格取得

益田赤十字病院 研修医室





業績

ACHIEVEMENTS

【論文】

1. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: White Nail as a Static Physical Finding: Revitalization of Physical Examination. Clinics and Practice 2021, 11 (2), 241-245; <https://doi.org/10.3390/clinpract11020036>
2. Satoko Maejima, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: The Implementation of a Clinical Ladder in Rural Japanese Nursing Education: Effectiveness and Challenges. Healthcare 2021, 9 (4), 469; <https://doi.org/10.3390/healthcare9040469> (IF 2.645)
3. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano: Fears Related to COVID-19 among Rural Older People in Japan. Healthcare 2021, 9 (5), 524; <https://doi.org/10.3390/healthcare9050524> (IF 2.645)
4. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano: Effects of Implementation of Infection Control Measures against COVID-19 on the Condition of Japanese Rural Nursing Homes. International Journal of Environmental Research and Public Health 2021, 18, 5805. <https://doi.org/10.3390/ijerph18115805> (IF 3.390)
5. Ryuichi Ohta, Akiko Yata, Yuki Arakawa, Koichi Maiguma, Chiaki Sano: Rural Social Participation through Osekkai during the COVID-19 Pandemic. International Journal of Environmental Research and Public Health 2021, 18 (11), 5924; <https://doi.org/10.3390/ijerph18115924> (IF 3.390)
6. Ryuichi Ohta, Akinori Ueno, Jun Kitayuguchi, Yoshihiro Moriwaki, Jun Otani, Chiaki Sano: Comprehensive Care through Family Medicine: Improving the Sustainability of Aging Societies. Geriatrics 2021, 6, 59; <https://doi.org/10.3390/geriatrics6020059>
7. Haruaki Tomioka, Yutaka Tatano, Toshiaki Shimizu, Chiaki Sano: Immunoadjuvantive Therapy against Bacterial Infections Using Herbal Medicines Based on Th17 Cell-mediated Protective Immunity. Current Pharmaceutical Design 2021 Jun 8. doi: 10.2174/1381612827666210608143449 (IF 3.116)
8. Yoshihito Funo, Eisaku Taniguchi, Hiroyuki Taniura, Michiko Yoshioka, Hideyuki Kanda, Chiaki Sano: Factors Associated with Return of Spontaneous Circulation in Out-of-Hospital Cardiopulmonary Arrest Cases. Shimane Journal of Medical Science 2021 38, 23-31. <https://ir.lib.shimane-u.ac.jp/53331>
9. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano: Family Medicine Education at a Rural Hospital in Japan: Impact on Institution and Trainees. International Journal of Environmental Research and Public Health 2021, 18, 6122. <https://doi.org/10.3390/ijerph18116122> (IF 3.390)

10. Ryuichi Ohta, Mikiya Sato, Yoshinori Ryu, Jun Kitayuguchi, Tetsuhiro Maeno, Chiaki Sano: What resources do elderly people choose for managing their symptoms? Clarification of rural older people's choices of help-seeking behaviors in Japan. *BMC Health Services Research* 2021, 21:640 <https://doi.org/10.1186/s12913-021-06684-x> (IF 2.655)
11. Shiho Amano, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Acute Facial Edema in a Patient with Systemic Lupus Erythematosus. (Case report) *Reports* 2021,4,22. <https://doi.org/10.3390/reports4030022>
12. Akiko Shimizu, Ryuichi Ohta, Hana Otani, Chiaki Sano: The Contribution of Temporal Flat Lateral Position on the Mortality and Discharge Rates of Older Patients with Severe Dysphagia. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18 (16), 8443; <https://doi.org/10.3390/ijerph18168443> (IF 3.390)
13. Ryuichi Ohta, Mikiya Sato, Jun Kitayuguchi, Tetsuhiro Maeno, Chiaki Sano: The Association between the Self-Management of Mild Symptoms and Quality of Life of Elderly Populations in Rural Communities: A Cross-Sectional Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18 (16), 8857; <https://doi.org/10.3390/ijerph18168857> (IF 3.390)
14. Nobuhisa Ishiguro, Yoichi M. Ito, Sumio Iwasaki, Miki Nagao, Hideki Kawamura, Shinichiro Kanai, Yoko Nukui, Koichi Tokuda, Takayuki Miyara, Hidetoshi Igari, Koichi Yamada, Hiroki Chikumi, Chiaki Sano, Ryuji Koike, Tetsuya Yagi, Nobuo Murakami: Three-day regimen of oseltamivir for post-exposure prophylaxis of influenza in hospital wards: a study protocol for a prospective, multi-center, single-arm trial. *BMC Infectious Diseases* 2021, 21, 887; <https://doi.org/10.1186/s12879-021-06602-w> (IF 3.090)
15. Ryuichi Ohta, Mikiya Sato, Jun Kitayuguchi, Tetsuhiro Maeno, Chiaki Sano: Potential Help-Seeking Behaviors Associated with Better Self-Rated Health among Rural Older Patients: A Cross-Sectional Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18 (17), 9116; <https://doi.org/10.3390/ijerph18179116> (IF 3.390)
16. Masayoshi Kusunoki, Ryuichi Ohta, Jumpei Sawa, Chiaki Sano: Rapidly Growing Aneurysm with Ulcer-like Projection Complicated with *Bacteroides ovatus* Bacteremia. *Reports* 2021, 4 (3), 28; <https://doi.org/10.3390/reports4030028>
17. Kasumi Nishikawa, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: The Perception of Rural Medical Students Regarding the Future of General Medicine: A Thematic Analysis. *Healthcare* 2021, 9 (10), 1256; <https://doi.org/10.3390/healthcare9101256> (IF 2.645)
18. Jun Otani, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Association between Immunoglobulin G Levels and Adverse Effects Following Vaccination with the BNT162b2 Vaccine among Japanese Healthcare Workers. *Vaccines* 2021, 9 (10), 1149; <https://doi.org/10.3390/vaccines9101149> (IF 4.422)

19. Ryuichi Ohta, Akinori Ueno, Chiaki Sano: Changes in the Comprehensiveness of Rural Medical Care for Older Japanese Patients during the COVID-19 Pandemic. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18 (20), 10772; <https://doi.org/10.3390/ijerph182010772> (IF 3.390)
20. Shiho Amano, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Recognition of Anemia in Elderly People in a Rural Community Hospital. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18, 11179. <https://doi.org/10.3390/ijerph182111179> (IF 3.390)
21. Gen Adachi, Naoto Mouri, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: A Case of Cast Nephropathy Found as the Cause of Severe Renal Failure. (October 29, 2021) *Cureus* 13 (10) : e19135. DOI 10.7759/cureus.19135
22. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Rural Family Medicine Education During the COVID-19 Pandemic. *Family Medicine* 2021, 53 (8), 732-732. DOI: 10.22454/FamMed.2021.370180 (IF 1.756)
23. Yumi Jo, Masahiro Hirose, Toshihiko Kawamura, Chiaki Sano, Shunichi Kumakura, Junji Suzumiya, Kiwamu Nagoshi: Seasonal Influenza Infection Risk Factors of Personnel at Shimane University Hospital. *Shimane Journal of Medical Science* 2021, 38, 43-50. <https://ir.lib.shimane-u.ac.jp/53671>
24. Yumi Naito, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Solving Social Problems in Aging Rural Japanese Communities: The Development and Sustainability of the Osekkai Conference as a Social Prescribing during the COVID-19 Pandemic. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18 (22), 11849. <https://doi.org/10.3390/ijerph182211849> (IF 3.390)
25. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano: The Relationship between the Presence of White Nails and Mortality among Rural, Older, Admitted Patients: A Prospective Cohort Study. *Healthcare* 2021, 9 (12), 1611. <https://doi.org/10.3390/healthcare9121611> (IF 2.645)
26. Nozomi Nishikura, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Effect of Residents-as-Teachers in Rural Community-Based Medical Education on the Learning of Medical Students and Residents: A Thematic Analysis. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021, 18 (23), 12410; <https://doi.org/10.3390/ijerph182312410> (IF 3.390)
27. Tasuku Kato, Yasuhisa Nakano, Fumiko Yamane, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Consideration of Intestinal Failure in Cases of De-Adaptation of Short Bowel Syndrome: A Case Report and Descriptive Review. *Healthcare* 2021, 9 (12), 1660. <https://doi.org/10.3390/healthcare9121660> (IF 2.645)
28. Fumiko Yamane, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Left Lower Abdominal Pain as an Initial Symptom of Multiple Myeloma. (December 23, 2021) *Cureus* 13 (12) : e20652. doi: 10.7759/cureus.20652

29. Shiho Amano, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Natural Killer T Cell Intravascular Lymphoma With Presentation of Musculoskeletal Pain: A Case Report. (December 26, 2021) *Cureus* 13 (12) : e20711. doi: 10.7759/cureus.20711
30. Jumpei Sawa, Nozomi Nishikura, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Bilateral Intracardiac Microbubbles in a Patient With Giant Hiatus Hernia: A Case Report. (January 04, 2022) *Cureus* 14 (1) : e20933. doi: 10.7759/cureus.20933
31. Naoto Mouri, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Peritoneal Cancer Mimicking Sclerosing Mesenteritis: A Case Report. (January 04, 2022) *Cureus* 14 (1) : e20934. doi: 10.7759/cureus.20934
32. Naoto Mouri, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Effects of Shopping Rehabilitation on Older People's Daily Activities. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19 (1), 569. <https://doi.org/10.3390/ijerph19010569> (IF 3.390)
33. Hirotaka Ikeda, Ryuichi Ohta, Nozomi Nishikura, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano; The Persistent Approach to Diagnose Infectious Hepatic Cysts in a Patient With Recurrent Fever: A Case Report. (January 11, 2022) *Cureus* 14 (1) : e21137. doi: 10.7759/cureus.21137
34. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Severe Immune Thrombocytopenic Purpura Following Influenza Vaccination: A Case Report. (January 14, 2022) *Cureus* 14 (1) : e21250. doi: 10.7759/cureus.21250
35. Yuko Nakayama, Ryuichi Ohta, Naoto Mouri, Chiaki Sano; Intercostal Muscle Abscesses in Infective Endocarditis Associated With Migratory Deposition of Calcium Pyrophosphate. (January 18, 2022) *Cureus* 14 (1) : e21396. doi: 10.7759/cureus.21396
36. Ayuko Tokonami, Ryuichi Ohta, Yudai Tanaka, Shiho Amano, Chiaki Sano; Pericarditis With Cardiac Tamponade Mimicking Yellow Nail Syndrome in a Patient With Rheumatoid Arthritis and a Paucity of Joint Symptoms. (January 23, 2022) *Cureus* 14 (1) : e21523. doi: 10.7759/cureus.21523
37. Ryuichi Ohta, Keita Inoue, Chiaki Sano; Fatal Bleeding From a Common Iliac Arterio-Ureteral Fistula in an Older Patient. (January 24, 2022) *Cureus* 14 (1) : e21578. doi: 10.7759/cureus.21578
38. Ryuichi Ohta, Shuzo Hattori, Keita Inoue, Chiaki Sano; Difficulty in Diagnosing and Treating a Prostate Abscess With Bacterial and Fungal Coinfection in an Immunocompromised Patient. (January 31, 2022) *Cureus* 14 (1) : e21774. doi: 10.7759/cureus.21774
39. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; A Rare Case of Herpes Esophagitis in an Immunocompetent Elderly Patient. (February 03, 2022) *Cureus* 14 (2) : e21854. doi: 10.7759/cureus.21854
40. Ryuichi Ohta, Hirotaka Ikeda, Saya Kubota, Chiaki Sano; Acute Cholecystitis in an Elderly Patient With Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis: A Case Report. (February 03, 2022) *Cureus* 14 (2) : e21877. doi: 10.7759/cureus.21877

41. Miki Yamashita, Ryuichi Ohta, Naoto Mouri, Sho Takizawa, Chiaki Sano; Herpes Simplex Virus Pneumonia Mimicking Legionella Pneumonia in an Elderly Patient With Heart and Liver Failure. (February 05, 2022) *Cureus* 14(2): e21938. doi: 10.7759/cureus. 21938
42. Kanako Yokomizo, Momoko Tomozane, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Clinical Presentation and Mortality of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome in Japan: A Systematic Review of Case Reports. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(4), 2271; <https://doi.org/10.3390/ijerph19042271>
43. Yuta Horinishi, Kai Shimizu, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Surgical Interventions in Cases of Esophageal Hiatal Hernias among Older Japanese Adults: A Systematic Review. *Medicina* 2022, 58(2), 279; <https://doi.org/10.3390/medicina58020279>
44. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Serotonin Syndrome Triggered by Overuse of Caffeine and Complicated With Neuroleptic Malignant Syndrome: A Case Report. (February 21, 2022) *Cureus* 14(2): e22468. doi:10.7759/cureus.22468

【学会発表】

1. 佐野 千晶, 多田納 豊, 磯部 威, 富岡 治明: 日本結核・非結核性抗酸菌症学会 共同シンポジウム: 非結核性抗酸菌症の最近の話題 4. 非結核性抗酸菌に対するマクロファージを中心とした免疫応答. 第95回日本感染症学会学術講演会(第69回日本化学療法学会総会 合同学会) オンデマンド口頭発表 2021年5月8日, 横浜
2. 西川 香澄, 太田 龍一, 佐野 千晶: 総合診療教育における医学生の感じる理想と現実の解離: 質的研究. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日~5月23日 オンデマンド 2021年5月21日~7月21日
3. 白鳥 博之, 山田 壮史, 青野 梓, 阿部 春季, 足立 元, 大塚 友絵, 押切 謙一, 小内 ゆい, 笥みなみ, 隅田 菜緒, 炭本 真居子, 滝沢 章, 武淵 裕貴, 西上 あゆみ, 根本 卓也, 宮迫 瑞穂, 山崎 祐次郎, 吉岡 菜穂, 池田 有梨奈, 佐野 千晶: 学生が主導で多職種連携を実践する SiPS の立ち上げと活動~コロナ禍の1年を振り返って~. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日~5月23日 オンデマンド 2021年5月21日~7月21日
4. 笠 芳紀, 太田 龍一, 片岡 大輔, 佐野 千晶: 地域自主組織が与える影響と今後の課題に関する混合研究. オンデマンド口頭 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日~5月23日 オンデマンド 2021年5月21日~7月21日
5. 山根 史子, 太田 龍一, 佐野 千晶: 雲南市の在宅死の推移とその要因. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日~5月23日 オンデマンド 2021年5月21日~7月21日
6. 天野 志保, 太田 龍一, 佐野 千晶: 僻地における高齢患者の貧血精査の現状. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日~5月23日 オンデマンド 2021年5月21日~7月21日

7. 内藤 祐美, 太田 龍一, 佐野 千晶: 島根県雲南市における社会的処方. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日～5月23日 オンデマンド 2021年5月21日～7月21日
8. 布野 慶人, 谷口 栄作, 堀田 優希江, 宅野 真由美, 佐野 千晶: ウツタイン様式等による病院外心肺停止患者の検討. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日～5月23日 オンデマンド 2021年5月21日～7月21日
9. 毛利 直人, 太田 龍一, 佐野 千晶: ショッピングリハビリが高齢者の運動機能や認知機能に与える効果. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日～5月23日 オンデマンド 2021年5月21日～7月21日
10. 澤 純平, 太田 龍一, 佐野 千晶: 疑義照会から見る医師の誤処方に関連する因子の探索. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日～5月23日 オンデマンド 2021年5月21日～7月21日
11. 西倉 希, 太田 龍一, 笠 芳紀, 佐野 千晶: 地域基盤型教育における Resident as Teacher の導入が医学生ならびに研修医に与える影響: 質的研究. ライブ口頭発表 ライブ 2021年5月21日～5月23日 オンデマンド 2021年5月21日～7月21日
12. 堀田 優希江, 布野 慶人, 宅野 真由美, 吉川 啓介, 佐野 千晶: 医学生の就業観とワークライフバランスについての認識アンケート調査. 第53回日本医学教育学会大会, オンデマンド口頭発表 オンデマンド2021年7月23日～8月31日
13. 佐野 千晶: 人類に適応を成し遂げた病原微生物 –結核と新型コロナウイルス–. 特別講演・市民公開講座 第122回日本医史学会 オンライン島根大会, オンデマンド口頭発表 2021年9月18日～9月19日
14. 宮迫 瑞穂, 米原 志織, 山口 みく, 白鳥 博之, 滝沢 章, 小内 ゆい, 根本 卓也, 山崎 祐次郎, 戸上 央, 大村 裕佳子, 武淵 裕貴, 炭本 真居子, 松田 大旺, 清水 洋介, 佐野 千晶: 学生が主体で多職種連携を実践する SiPS との出会いと変化 ～管理栄養士養成課程学生からの視点～. 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, オンデマンド 2021年11月19日～11月30日
15. 堀田優希江, 原央純, 淵脇貴史, 清水保彦, 清水香奈子, 森倉一郎, 青井典明, 坂本達則: Petrosquamosal sinus の一例. 日耳鼻第47回中国地方部会連合講演会, 2021年11月28日(日), 主催: 鳥取大学(大会長 藤原和典) オンライン参加
16. 佐野 千晶, 布野 慶人, 堀田 優希江, 宅野 真由美: 地域医療関係講座の現状と課題 島根大学医学部地域医療支援学講座. 第12回中四国地域医療フォーラム プレ集会, ライブ口頭発表 2022年2月5日
17. 佐野 千晶, 布野 慶人, 堀田 優希江, 宅野 真由美: 地域枠制度のこれまでの検証と今後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について 島根大学医学部地域医療支援学講座. 第12回中四国地域医療フォーラム 本集会, ライブ口頭発表 2022年2月5日

【研究会発表】

1. 佐野 千晶：「微生物に対する免疫応答 ～抗酸菌とコロナウイルスとの比較から～」第8回島根気道アレルギー疾患研究会、令和3年4月15日、出雲 ライブ Web 配信
2. 多田納 豊, 佐野 千晶, 富岡 治明：抗酸菌が産生するDアミノ酸のマクロファージへの作用についての基礎的検討、第52回結核・非定型抗酸菌症治療研究会、令和3年12月4日～5日、東京 ハイブリッド Web 発表

【講演】

1. 佐野 千晶：新型コロナウイルス感染症とどう向き合うか（基調講演）第38回 地域保健を語る会総会（対面）2021年7月10日、出雲市民会館 参加者 保健師・医師・行政関係者 55名
2. 佐野 千晶：島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告、令和3年度しまね地域医療の会（ハイブリッド 対面発表）2021年7月22日、出雲・ニューウエルシティ出雲（会長 山口 修平）
3. 佐野 千晶：地域住民の健康をコロナから守ろう（講演会）健康ますだ市フェスティバル 2021年10月31日、益田・ふれあいホールみと、市民公開講座（主催 益田市）
4. 佐野 千晶：講演3「感染制御に役立つコロナ検査とワクチンの知見」、第22回島根感染対策セミナー 2021年10月24日、島根大学医学部（学会長 磯部 威）

【学会等参加】

1. 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（堀田）オンライン 主催：京都大学 大会長 大森孝一 2021年5月12日～15日
2. 第1回山陰リサーチミーティング（佐野）オンライン 主催：鳥取大学 地域医療学講座 孫大輔, 雲南市立病院 太田龍一 2021年6月19日
3. 第16回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（堀田）オンライン 主催：近畿大学 大会長 土井勝美 2021年7月8日・9日
4. 日耳鼻第46回中国四国地方部会連合学会（堀田）オンライン 主催：広島大学 2021年7月10日
5. 第22回日本内分泌学会中国支部学術集会（堀田）オンライン 主催：広島赤十字・原爆病院 内分泌・代謝内科 大会長 亀井望 2021年9月4日
6. 第14回地域医療フォーラム 2021（佐野, 宅野）地域医療 with コロナ 主催 自治医科大学 地域医療推進課 2021年10月10日
7. 日本医療マネジメント学会 第19回島根支部学術集会（佐野）オンライン 会長 大田市立病院 西尾祐二 2021年9月25日～10月25日
8. 第2回山陰リサーチミーティング（佐野）オンライン 主催：鳥取大学地域医療学講座 孫大輔, 雲南市立病院 太田龍一 2021年10月16日

9. 第29回島根県国保地域医療学会（宅野）オンライン・島根 主催：島根県国民健康保険診療施設協議会、島根県国民健康保険団体連合会 2021年10月30日
10. 第72回日本結核非結核性抗酸菌症学会中国四国支部会（佐野）会長 磯部威 2021年12月4日
11. 第35回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会（堀田）オンデマンドビューイング 主催：東京大学 実行委員長 山岨 達也 2021年12月3日～31日
12. 第52回結核・非定型抗酸菌症治療研究会（佐野）会長 斎藤武文 2021年12月5日
13. 地域医療を守り育てる住民活動 全国シンポジウム2021(宅野) オンライン・栃木 主催：公益財団法人地域社会振興財団 後援：自治医科大学 2021年12月11日
14. 島根大学医学部呼吸器外科臨床実習セミナー（佐野）オンライン臨床実習について 2022年1月26日
15. 令和3年度 島根県臨床研修指導医講習会（佐野・堀田）2022年1月24日～2月19日 オンデマンド学習 ライブ学習
16. 第13回全国シンポジウム 地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか（佐野、堀田、宅野）オンライン・鹿児島 主催：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科他 令和4年2月18日

【その他】

1. 佐野 千晶：島根県院内感染制御ネットワーク会議 2021年10月24日：オンライン（島根県健康福祉部）島根県コロナ感染管理支援チーム活動報告（島根県健康福祉部）
2. 佐野 千晶：学生のシンポジスト発表指導 白鳥 博之（島根大学医学部医学科6年・多職種連携サークルSiPS／連携学習）シンポジウム2 コアとなる連携の価値をもとに、多職種連携をどう学んでいくのか～準備状態を踏まえた方略を考える～「SiPSが実践している連携のかたち～「3つの繋がる」から得たこと～ 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
3. 佐野 千晶：鳥取大学医学部地域医療学講座あり方懇話会 2022年1月21日：オンライン（鳥取大学）
4. 布野 慶人：DMAT Covid-19に伴う災害活動 5月23日・26日，7月25日・29日，8月16日・21日・27日，1月22日・30日，2月11日
5. 布野 慶人：アメリカ心臓協会 ACLS コース指導者参加，令和3年10月16日，六日市病院，アメリカ心臓協会 BLS コース指導者参加，令和3年11月13日，大田市立病院，アメリカ心臓協会 ACLS コース指導者参加，令和3年12月18日，大田市立病院



写真で見る1年間

PHOTO

4月 地域医療ウェビナー



4月 キャリアウェビナー



5月 地域医療ウェビナー



5月 キャリアウェビナー



5月 2021年度総合診療専攻医合同オリエンテーション



6月 地域医療ウェビナー



6月 キャリアウェビナー



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

6月 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会



7月 地域医療ウェビナー



7月 キャリアウェビナー



7月 えんネット交流会



8月 令和3年度総合診療医ブラッシュアップセミナー・プログラム説明会



8月 地域医療ウェビナー



9月 地域医療ウェビナー



9月 キャリアウェビナー



9月 ワークライフバランスセミナー



10月 研究室配属



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

10月 地域医療ウェビナー



10月 キャリアウェビナー



10月 島根大学医学部地域枠等入学生全学年会



11月 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会

フレキシブル実習に関する所感&提案

- 違う学年の学生(友人、先輩、後輩)と行くのはめっちゃ勉強になる！
(教え合い、モチベーション維持、縦の交友関係、島大の強み)
- 定期的に行くのはめっちゃ勉強になる！
(ベッドサイドでの経験値、ストリートスマート力強化)

11月 地域医療ウェビナー



11月 キャリアウェビナー



島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

12月 えんネット交流会



12月 地域医療ウェビナー



12月 キャリアウェビナー



1月 地域医療ウェビナー



1月 キャリアウェビナー



2月 キャリアウェビナー



2月 中四国フォーラム



3月 キャリアウェビナー




3月 第3回しまね総合診療の集い（阿部先生記念講演）

第3回 しまね総合診療の集い


伝えたいこと
～四半世紀 地域医療を見つめて～

2022年3月5日
浜田市国保診療所連合体
弥栄診療所 阿部顕治



プロローグ 学生時代のこと

農山村地域研究会の活動に参加
毎年度休みには旅行フェードアウトと称して、
勝手に地域（大船村：第三
学年）に泊り、
勝手に公認に合戦し、導
手に地域や行政に調査
結果の報告会を行って
いた。



1982年 予備校

3月 地域医療体験実習Ⅰ（春季地域医療実習）



高根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

おわりに

2021年の新型コロナウイルス感染症は、引き続き猛威を振るい、我が国においても新しい変異株の出現により、第4波、第5波、第6波と拡大しました。昨年度に増して、すべての面で危機的な状況に陥っている感があります。この状況はいつ収束するのでしょうか。一刻も早く普段の生活に戻ってほしいと切に願っています。

こうした中、当講座では「コロナ禍」「新しい生活様式」「With コロナ」などという言葉のとおり、新しい教育スタイルを模索した一年でもありました。感染予防対策を遵守しながら、できる限り対面での地域医療教育等を行い、対面とWebを併用したHybrid型の教育も多数実施してきました。

また、昨年4月に「しまね総合診療医センター」が開設されたことにより、一層強固な総合医ネットワークが構築され、多面的・多角的な教育が可能となりました。今後も講座全体のブラッシュアップを図り、医学生や総合医の教育に努めてまいります。

「令和」に込められた願いは『一人一人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせること』です。この願いはコロナ禍のために様々な制限が掛かり難しくなっていますが、環境や状況が変化しても、学生一人一人が大きく飛躍するよう、これまでとは違った支援をして行きたいと思います。

学内および学外の関係者の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年3月1日

地域医療支援学講座 助教 布野 慶人

島根大学医学部地域医療支援学講座
令和3年度報告書

発行日 ■ 令和4年3月

発行者 ■ 島根大学医学部地域医療支援学講座

教授 佐野 千晶

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話(ダイヤルイン)0853-20-2558 FAX 0853-20-2563

E-mail : career@med.shimane-u.ac.jp

URL : <https://www.communityshimane.jp/>

印刷・製本 ■ 有限会社 松陽印刷所

〒690-0826 島根県松江市学園南二丁目3番11号

COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT

ANNUAL REPORT 2021



国立大学法人
島根大学医学部地域医療支援学講座
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
TEL(0853)20-2558 FAX(0853)20-2563
career@med.shimane-u.ac.jp

